

日本語を第二言語とする生徒の理科と社会科の入試対策

—過去問の解答傾向にみる受験戦略—

神 林 邦 明

はじめに

この論文では、日本語を第二言語とする生徒（以下 JSL 生徒）^(注1)が高校入試の理科と社会科の対策をおこなう上で効果的な学習方法について考察する。また、高校受験をひかえた JSL 生徒に対して、実際の入試問題を模擬的に解答する調査をおこない、効果的な学習方法についても考察をおこなう。

近年、わが国に滞在する外国人の数は増え、令和元（2019）年末の在留外国人数は 293 万 3,137 人であり、前年末の 273 万 1,093 人に比べて 20 万 2,044 人（7.4%）の増加となり過去最高となった^(注2)。この動きに従い、外国籍の児童生徒数も増加し、文部科学省の調査によれば、平成 30（2018）年度に公立学校に在籍する外国籍の児童生徒^(注3)は 93,133 人となっており、これは 2 年前の調査時（2016 年）の 80,119 人に比べて 13,014 人（16.2%）の増加となっている（文部科学省「学校基本調査」）。

外国籍の児童生徒の中で日本語指導が必要な児童生徒数は 40,755 人おり、これは 2 年前の調査時の 34,335 人に比べて 6,420 人（18.7%）の増加となっている^(注4)。また、日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒は 10,371 人で、2 年前の調査時の 9,612 人に比べて 759 人（7.9%）の増

加となっている。両者を合わせると、日本語指導が必要な児童生徒数は 51,126 人となり、2 年前の 43,947 人から 7,179 人（16.3%）の増加となっている。

日本語指導が必要な外国籍の児童生徒 40,755 人のうち 32,418 人が日本語指導等の特別な指導を受けており、その割合は 79.5%となっている（前回は 34,335 人中 26,410 人で 76.9%）。なお、ここであげた「特別な指導」には、在籍学級での指導以外に、後述の「特別の教育課程」による日本語指導や教科の補習等が含まれている。

また、日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒 10,371 人のうち 7,719 人が日本語指導等の特別な指導を受けており、その割合は 74.4%となっている（前回は 9,612 人中 7,137 人で 74.3%）。

このような動向を受けて、2014（平成 26）年から「特別の教育課程」の編成と実施が可能となった。この特別の教育課程は、小学校と中学校の段階を対象として、「外国人児童生徒等が日本語で学校生活を営み学習に取り組めるように、日本語や各教科の指導等について児童生徒一人一人に応じて編成する教育課程」である^(注5)。

日本語指導等の特別な指導を受けた外国籍の児童生徒 32,418 人のうち、この「特別の教育課程」による日本語指導を受けた者は 19,695 名おり、その割合は 60.8%になる。この割合は、

表1 「特別の教育課程」による指導を実施していない場合の理由 (校数)

① 日本語と教科の統合的指導を行う担当教員がいないため。	4,167
② 「特別の教育課程」で行うための教育課程の編成が困難であるため。	3,160
③ 個別の指導計画の策定や学習評価が困難なため。	2,156
④ 拠点校への通級などのための学校間の連携体制が整っていないため。	1,663
⑤ 該当する児童生徒本人、または、保護者が希望しないため。	2,094
⑥ 校内に「特別の教育課程」の対象児童生徒がいないと判断するため。	2,315
⑦ その他	1,631

(出所) 文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(平成30年度)」の結果について」12頁。

(注) 日本語指導等特別な指導を受けている児童生徒のうち、「特別な教育課程」による日本語指導を受けていない児童生徒が在籍している学校の回答。小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程、特別支援学校の小学部・中学部のみ。外国籍 3,716校、日本国籍 1,547校。複数回答可。

2014(平成26)年は23.9%、2016(平成28)年は42.6%と、順次増加している。また、日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒で日本語指導等の特別な指導を受けている7,719人のうち、「特別の教育課程」による日本語指導を受けた者は4,420人(57.3%)おり、この割合についても、2014(平成26)年は20.0%、2016(平成28)年は38.8%と増加傾向にある。

続いて、学校を単位として指導状況を見ると、全国で日本語指導が必要な外国籍の児童生徒が在籍する学校は7,852校ある。この中で、日本語指導等の特別な指導をおこなっている学校は6,245(7,852校中79.5%)ある。これは生徒数でみた割合と等しい。一方で、「特別の教育課程」の実施状況を見ると、6,245校のうち43.6%にあたる2,722校では実施をしているものの、56.4%にあたる3,523校では実施をおこなっていない。また、日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒が在籍する学校が3,696校ある中で、日本語指導等の特別な指導をおこなっている学校は2,801(3,696校中75.8%)ある。これも生徒数でみた割合の77.4%とほぼ等しい。

一方で、「特別の教育課程」の実施状況を見ると、2,801校のうち46.7%にあたる1,309校では実施をしているものの、53.3%にあたる1,492校では実施をしていない。このように、「特別の教育課程」の実施状況を見ると、現段階では実施

していない学校の方が多いことがわかる。この理由について調査したものが表1である。複数回答可であるため断言はできないが、①担当教員の不在、②課程の編成の困難さ、③個別の指導計画の策定や学習評価の困難さ、④学校間の連携体制の不整備といった受け入れる側の事情が多くあげられている。

JSL生徒の受験指導は、この「特別の教育課程」よりさらに困難が予想される。

1. JSL 生徒の受験指導の制約

ここではJSL生徒の受験指導について論点を整理するために、日本語指導と学習指導の制約についてみていく。

1-1. 日本語指導の制約

図1は、「特別の教育課程」による日本語指導を行う対象である児童生徒の日本語能力・日本語学習段階・指導の内容例をまとめた指導内容案を整理したものである。

日本語指導の内容例の学習目的は次の通りである。

- ① 「サバイバル日本語」…挨拶や体調を伝える言葉、教科名や身の回りの物の名前などを知って使えるようにする。
- ② 「日本語基礎」(文字・表記・語彙・文法)

【指導期間の目安】

～3か月	～6か月	6か月～1年	1年～1年6か月	1年6か月～2年	2年～
------	------	--------	----------	----------	-----

【児童生徒の日本語能力】

全く分からない	日常会話ができるまで	在籍学級の授業に参加できるまで
---------	------------	-----------------

【児童生徒の日本語学習段階】

初期 前期	初期 後期	教科につながる学習期
-------	-------	------------

【日本語指導の内容例】

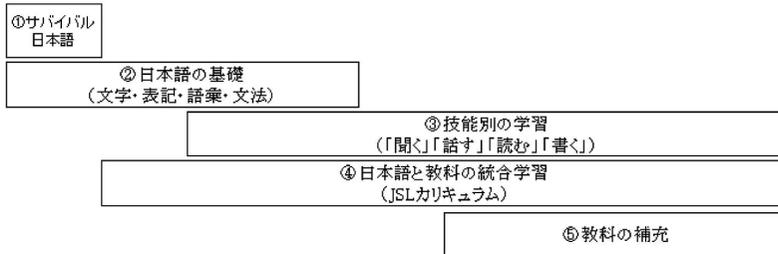


図1 「特別の教育課程」による日本語指導を行う対象児童生徒と指導内容（案）

(出所) 日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議（第3回：平成24年12月27日）
 [資料1] 文部科学省初等中等教育局国際教育課「日本語指導が必要な児童生徒に対する「特別の教育課程」の在り方等について」の資料「3.『特別の教育課程』による日本語指導を行う対象児童生徒と指導内容（案）」
 (20頁) を整理 (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/kaigi/1330284.htm)。

表2 日本語指導が必要な児童生徒を対象に行っている指導内容について（校数）

① 「サバイバル日本語」	挨拶や体調を伝える言葉、教科名や身の回りの物の名前を使って使えるようにする（原文のママ）。	5,057
② 「日本語基礎」	文字・表記・語彙・文法、学校への適応や教科学習に参加するための基礎的な力をつける。	7,198
③ 「日本語と教科の統合学習」	JSL カリキュラム	3,031
④ 「教科の補習」	在籍学校での学習内容を先行して学習したり、復習したりする。	6,067
⑤ その他		2,287

(出所) 表1に同じ。

(注) 日本語指導が必要な児童生徒が在籍している学校の回答（全校種）外国籍 7,852校、日本国籍 3,696校。
 複数回答可。

- …発音の練習、文字の習得、語彙を増やす、簡単な文型を学ぶ、学校への適応や教科学習に参加するための基礎的な力をつける。
- ③技能別の学習（「聞く」「話す」「読む」「書く」）活動4技能のうちどれかに焦点をしばって学習する。例えば、読解や作文の学習に重点をおいて学ぶなどが考えられる。
- ④日本語と教科の統合学習（JSL カリキュラ

ム）教科の学習内容を理解することと、日本語を学ぶことを組み合わせる学習する。

⑤教科の補充…在籍学校での学習内容を、先行的や復習的に学習する。

ここでは、日本語が全く分からない児童生徒を対象とした「特別の教育課程」の期間を2年程度としているが、これはあくまでも「在籍学級の授業に参加できるまで」の期間を想定して

おり、現実的な問題として、この期間で高等学校の入学に必要な知識を身につけることは不可能であると考えられる。

一般的に、日常的な「生活言語」は1~2年程度で習得可能であるが、学習に必要な「学習言語」の習得には5~7年程度かかるとされている^(注6)。遅くとも小学校高学年の段階で来日していれば、高校に進学する時にはある程度の学習言語の習得はできていることになるが、高校の学習内容は小中学校の学習内容を前提としているため、これらの積み重ねが不足している生徒にとって、その学習には困難が伴うといわざるをえない。

表2は、「特別の教科課程」も含んだ指導を実施している学校がおこなっている指導内容の内訳である。最も多いものは、②「日本語基礎」(7,198校)であり、次いで、④「教科の補習」(6,067校)、①「サバイバル日本語」(5,057校)となり、③「日本語と教科の統合学習」である「JSLカリキュラム」は3,031校でしか実施されていない。

このように、日本語指導が必要な児童生徒は学力を向上させる上で厳しい状況に置かれている。

JSLカリキュラムのように教科の学習と第二言語の学習を統合させていく方法は、内容重視の外国語学習方法(Content-Based Instruction)(Briton, Snow, and Wesche [1989])とよばれる。ただ、これはあくまでも、学校の授業に参加し、その内容を理解することが目標となっている。そのため、この学習方法を、高校受験を目標においた学習指導にそのまま結びつけるのは、現状では困難であると考えられる。一般的な日本人の生徒ならば、経済的な問題や立地条件を別とすれば学習塾等を利用することで受験対策にはある程度対応できる。しかし、日本語指導が必要な児童生徒を受け入れる学習塾は現時点ではほとんど存在しないため、これらの児

童生徒にとって受験は非常に高いハードルとなりえるであろう。

それでもここであげている児童生徒は、日本語指導が必要な学齢期の子供全体の中では比較的恵まれた環境におかれていると考えられる。未就学の児童生徒や、日本の小中学校に相当する海外の学校を既に卒業した生徒は、学習指導や受験対策に関する情報に接することは困難である。日本の高等学校への進学を希望する生徒の中には、来日から1年程度で受験を迎える者もいる。冷静に考えれば「無茶な」ことであるが、このような生徒が現実存在する以上、何らかの対策方法を考える必要があるであろう。またこの「無茶な」状況におかれた生徒が体験する諸問題は、日本の学校に在籍する日本語指導が必要な生徒の多くが体験する諸問題を凝縮したものであると考えられる。よって、日本語が全く分からない既卒の生徒に対しておこなう受験指導は、日本の学校に在籍する日本語指導が必要な生徒の受験対策を補強するという効果を持つ可能性がある。

以上の問題意識に立ち、この研究を進めていく。

1-2. 受験指導の制約

JSL生徒の受験戦略はあくまでも入試において現実的な得点をとることを目標としている。ここでは、小中学校に在籍するJSL生徒が高校受験を念頭においた学習をする上で、学校における履修カリキュラムとどのように対応させていくべきかについて考察する。

実際の入試でJSL生徒の得点する力を向上させるためには、日本語の指導に加えて、生徒の学力も把握する必要がある。前者の日本語指導については膨大な研究の蓄積があるが、後者の学力調査については、小中学校の社会科の授業に対する補助的な指導に関するものが中心となっており、入試対策を念頭においた研究はほ

とどなされていない。神林(2018)では、JSL生徒に社会科の過去問を実際に解答してもらう調査をおこない、母語や英語で理解している知識であっても、日本語の理解力の不足によって得点に結びつかない現状を指摘した。

JSL生徒の受験対策に関する研究が少ない理由としては、「とてもそこまで手が回らない」という現実的な問題がある。JSL生徒を対象とした系統立てた学習対策としては、前述の「特別の教育課程」がある。これは1~2年の指導期間で在籍学級の授業に参加することを目標としている。しかし、既卒のJSL生徒の場合、入試までの準備期間が数か月となることもありえる。この場合、その学習スケジュールは極めて厳しいものとならざるをえない。「特別の教育課程」では1年程度の日常会話のサポートをした上で教科の補充としての学習をおこなうことを想定しているが、場合によってはこのスケジュールを前倒しにして日常会話と教科の学習と入試対策の3つを同時におこなう必要がでてくる。これは、系統立てた学習方法を組み立てていく上で、極めて厳しい制約条件となりえる。

神林(2019)では、滞日1年前後のJSL生徒が高校の入学試験を受けるにあたって、現実的な得点ラインを「とりあえず」とることを目標とした学習戦略を考察した。日本語の能力が不十分な生徒が入試を受けることには、はじめから大きな困難をとまうため、その戦略は、①記述形式の頻出キーワードを中心に学習をおこない、②大半を占める選択形式問題で正答する確率をあげるという消極的なものであった。

この戦略は、時間的な余裕がない生徒にとっては現実的な落とし所ではあるが、学習本来の取り組みとしては外れていると考えられるため、現在小中学校に在籍している児童生徒にこの学習戦略をそのままあてはめることはできない。また、「とりあえず」の対策によって高校に進学した生徒であっても、高校の学習について

いくためには、やはり小中学校のカリキュラムを基盤においた一般的な学習方法を模索していく必要があると考えられる。

2. JSL カリキュラムと JSL 受験戦略

次に、日本語学習と教科学習を結びつける「JSL カリキュラム」を受験指導に活用していく方法について考察する。

2-1. JSL カリキュラム

文部科学省は、帰国・外国人児童生徒教育等に関する施策として、「学校教育における JSL カリキュラム」を開発し、ホームページで公開している。中学生を対象としたものとしては平成19年に、国語科、社会科、数学科、理科、英語科の5教科について取りまとめられている^(注7)。

本章では、この JSL カリキュラムを取り上げて、今回の分析で示す受験指導の方法への適用方法について考察する。なお、この受験指導方法はあくまでも JSL 生徒が入試において得点を上げることを目的としており、本来の学習指導のあり方からは外れている。よって、一般的な受験指導方法と区別するために、JSL 生徒のための受験指導方法を「JSL 受験戦略」とよぶこととする。

JSL カリキュラムの開発にあたって、平成19年に公開された中学校編の JSL カリキュラムでは、平成15年に公開された小学校編で示された以下の4つの基本的な考え方を引き継いでいる。

- ①学習歴、生活歴、文化的・社会的背景をもつ生徒が対象であり、そうした多様な生徒を教科の学びに参加させるための工夫をする。
- ②具体物・体験により生徒の学習活動を支える。
- ③固定した内容をつくるのではなく、カリキュラムづくりを支援するツールを開発する。
- ④自分から日本語を使って学習内容を表現・

発信することを重視する。

また、小学生を対象とした JSL カリキュラムでは、カリキュラムの目的を以下の 2 種類に分けている。

- ①「トピック型」…特定のトピック（たとえば「水道水はどこからやってくるのか」）を共同して探求する課題に取り組むなかで「日本語で学ぶ力」の基礎を身に付けていくことをめざす。
- ②「教科志向型」…各教科の内容に応じた「日本語で学ぶ力」の育成をめざす。

この 2 つの分類は、中学校の JSL カリキュラムでは明示されていないが、各教科の学習内容を前提にして、生徒が学習すべき基本的な事項について詳細なリストが作成されている。

このような目的別の分類に JSL 受験戦略をあてはめるとすれば、それは「得点志向型」となると考えられる（神林 [2019]）。本研究で考察する JSL 受験戦略は、学習内容のほぼすべてがこの得点志向型にあてはまる。①「トピック型」と②「教科志向型」の相乗効果は、教科を包括的に学習していく上では極めて重要なプロセスであるが、入学試験の対策としてそのまま使えるわけではない。とはいえ、授業を受けた経験があるにもかかわらず得点が上がらないことは学習意欲を削ぐことにもつながりかねないので、「得点志向型」の学習方法を組み入れること

には次の節で触れるように間接的な意義はあるであろう。

JSL カリキュラムでは、日本語指導と教科指導の統合を目的としている。ここでは、この JSL カリキュラムにさらに受験指導を統合する方法について考察する。

JSL カリキュラムのねらいは、「日本語の習得を通して学校での学習活動に参加するための力の育成」をめざしたものであり、「日本語指導と教科指導を統合し、学習活動に参加するための力の育成をめざしたカリキュラムを開発することにある」とされている（本節の以下の記述で「 」内は文部科学省の資料で用いられた言葉である）^(注 8)。このカリキュラムでは学習の導入としては「初期指導」があり、続いて言語能力を高める「日本語指導」と平行して学習内容の理解を図る「JSL カリキュラム」が実施され、最終的には日本人生徒と同様の「学習活動への参加」をめざしている。

ここで重視されているのは、「文型や語彙などを中心にした日本語指導とこの JSL カリキュラムとを有機的に組み合わせることにより、児童生徒を学習活動に参加させていくこと」である。以上のプロセスを図示すると図 2 のようになる。

この JSL カリキュラムは、学校での利用を念頭においたものであるため、今回考察する JSL

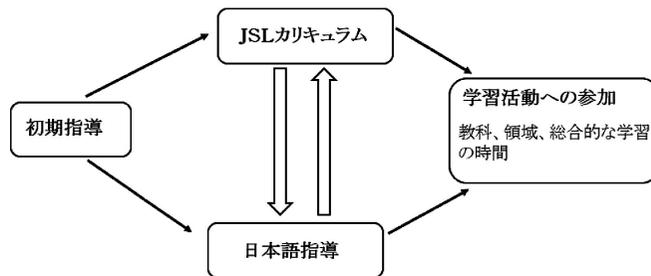


図 2 JSL カリキュラムと他の指導との関係

（出所）文部科学省『学校教育における JSL カリキュラム（中学校編）』（「I JSL カリキュラム（中学校編）開発の基本的な考え方」「I JSL カリキュラムの基本的考え方」〔6 頁〕より。

（注）出所の図では JSL カリキュラムと日本語指導の関係は「 \longleftrightarrow 」で示されている。この表し方だと対立関係にも見えるため、本図ではこのように描き直した。

受験戦略とは位置づけが異なる。JSL カリキュラムが目的としているのは対象教科について総合的かつ多面的な学習をおこなうことである。これに対して、JSL 受験戦略では学校における学習活動への参加は想定せず、あくまでも限定的（頻出テーマに重点）かつ一面的（入試の得点を上げることに特化）な利用を想定している。実際の学習プロセスは、「初期指導」から「日本語指導」に進むため、試験対策として JSL 受験戦略を取る上記のケースとは別のプロセスとなると考えられる。

JSL 受験戦略はあくまでも、滞在 1 年程度の JSL 生徒が入試で「とりあえず」得点をあげることに特化した学習方法である。JSL カリキュラムとは異なり、本来の教科の学習目的に沿ったものではない。ただ、この JSL 受験戦略で使われる頻出キーワードは、すべてが教科書に示されている内容である。また、理科や社会科の入試対策の中で、記述形式の対策はキーワードの定着や漢字の練習としても役立ち、論述形式の解答例は日本語を学習する上での実践的な例文として利用することもできるであろう。よって、本研究で示した JSL 受験戦略を JSL カリキュラムに組み込むことは、在籍中の小中学生の学習指導に対して少ないながらも役立つことができると考えられる。また、得点向上という明確な目標は、たとえわずかであっても達成

できたときの満足感がその場で得やすい。これは学習を続けていく上でやる気を少しでも高めることにつながるであろう。さらに、この JSL 受験戦略を用いて高校に進学した生徒に対しても、小中学校の学習の延長上に位置づけられる学習内容へのつながりを示しておくことは、学習を続けて高校を卒業するために役立つと考えられる。

JSL カリキュラムで示された一連の学習プロセスに、JSL 受験戦略を加えて「学習活動への参加」につながるようにするためには、各プロセスとの間で JSL 受験戦略との相乗効果があらわれることが望ましい（図 3）。

JSL カリキュラムによれば、一般的な教科の学習では「抽象的、概念的な一般命題の学習が中心」となるとされている。この場合、「語彙や辞書的な言葉理解が先行」するため、JSL 生徒にとっては学習内容を理解することが困難になる。そのため、JSL カリキュラムでは「具体物や直接的体験」に基づいて学習内容の理解をはかろうとしている。さらに新しい課題を理解するために、「自分の既存の認識構造」にこの課題を組み入れることや、「母国で得た既有知識を活性化させ」ていくことが必要であるとしている。

ただ、現実的な入試対策としては、一般的な教科の学習の特徴である「語彙や辞書的な言葉理解」をおろそかにすることはできない。これ

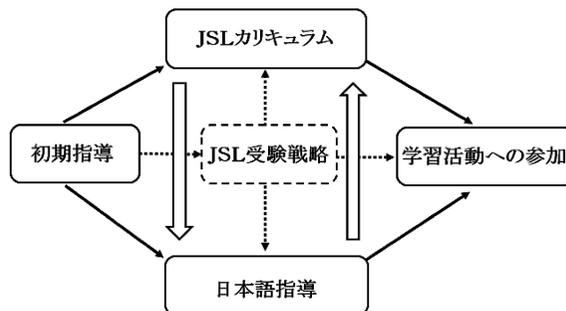


図 3 JSL 受験戦略の JSL カリキュラムへの適用

（出所）図 2 をもとに筆者作成。

らの一部は頻出キーワードとなるからである。よって、JSL 受験戦略では、過去問の分析から得られた頻出キーワードに重点を絞り、それを「母国で得た既有知識」と結びつけることで、入試の過去問という「具体物」と問題を解答するという「直接的体験」を「具体物や直接的体験」の利用に適應させることができるであろう^(注9)。

2-2. 現実的な受験戦略

—理科・社会の2割の壁—

一般的な日本人生徒の場合、学習指導要領に準拠した学習課程で学びつつ、高校入試の対策をおこなっていく。しかし、母国の中学校を卒業した後に来日したJSL生徒が高校を受験する場合、準備期間は長くても1年程度になる。このため、入試対策では現時点でどれくらいの得点が可能なかを考慮に入れて志望校を決定し、学習を進める必要がある。一般的な日本人生徒がカリキュラムに沿って最終段階で入試対策をおこなう「入口」からのアプローチであるのに対して、JSL生徒の場合は「出口」からのアプローチをとることになる。

ここでは、JSL生徒が学習対策をおこなうにあたり、一般的な受験教科である英語・数学・国語・理科・社会について、どのようなアプローチ方法をとるべきかを考察していく。

はじめに、入学試験の設問の構造について考察する。入学試験の設問は受験者の合否を決める機能がある。私立高等学校の場合、一般的には成績上位から定員に達するかどうかで合否が決まるため、設問の難易度は各学校に委ねられている^(注10)。これに対して公立高等学校の場合、全受験者が同一の設問を解答し、得点が志望校の要求する水準に達しているかどうかで合否が決定される。このため設問は、各受験者の学力を相対的につかむことができるように基礎的な設問と応用的な設問を組み合わせで作成されて

いる。よって、公立高等学校の場合、進学希望者は過去問を解くことで自分のその時点の学力について把握することができ、志望校を決めるための参考情報として使うことができる^(注11)。

受験対策の目的の1つとしては現時点の学力に合わせた志望校に合格することがあげられる。試験日までの日程的な余裕がないJSL生徒の場合、日本語の理解度が不足するため本来の学力を発揮することができない。このように「得点が取れない」という条件を前提とすると、JSL生徒はとにかく「合格するため」に、日本語能力の不足による損失が最も少なく済む戦略をとることになる。これは受験の「ミニマックス戦略」といえよう。

次に、JSL生徒が実際の入試でどれだけの得点をあげればよいかを考察する。表3は今回の調査対象であるJSL生徒たちが受験する千葉県公立高等学校入学者選抜試験の過去3年の平均点および標準偏差である。年度によって違いはあるが、各教科ともに平均点は55~60点となっている。

正規分布では、平均点±標準偏差の範囲に全データの68.27%が分布する。これは偏差値40~60に対応し、平均点から標準偏差を引いた値が偏差値40になる。この値が合格ラインとなる高校は複数存在する。受験者の得点分布が正規分布であると仮定すれば、この偏差値40に相当する得点(平均点マイナス標準偏差)を超えることが、JSL生徒の当面の目標となると考えられる。

この目標ラインは、英語は30点、その他の数学・国語・理科・社会は40点前後であり、5教科合計では500点満点中200点前後となる。

JSL生徒の場合、日本語能力に問題があるため、一部の科目が目標ラインを下回ることもありえる。そのため、合計点で200点前後を取るといって受験戦略を取ることになる。これにあたっては、各教科の特性を考慮に入れる必要が

表3 千葉県公立高等学校入学者選抜受験者の平均点

		英語	数学	国語	理科	社会科	5教科
平成30年度	前期	59.7 (23.6)	58.5 (20.3)	63.2 (19.1)	60.0 (19.7)	52.9 (18.9)	294.3 (91.1)
	後期	49.7 (21.7)	62.0 (19.8)	55.7 (16.9)	67.5 (21.2)	56.0 (19.9)	290.9 (87.1)
平成31年度	前期	53.6 (24.5)	54.5 (18.7)	54.2 (15.4)	60.6 (20.8)	56.6 (20.9)	279.6 (93.2)
	後期	61.9 (23.7)	61.0 (19.1)	59.2 (15.1)	61.6 (19.3)	65.8 (22.0)	309.5 (88.8)
令和2年度	前期	54.6 (22.9)	51.4 (19.8)	46.0 (17.3)	48.8 (17.8)	60.7 (22.6)	261.6 (90.6)
	後期	51.5 (24.2)	59.0 (18.9)	54.7 (16.5)	59.7 (21.5)	62.1 (20.8)	287.2 (92.6)

(出所) 千葉県教育委員会。

(注) 括弧内は標準偏差。

ある。

英語・数学・国語はいわゆる主要3教科と呼ばれ、一般的な学習塾などのカリキュラムでも中心的な位置づけになっている。この中で、英語と数学は設問にしめる日本語の割合が低いため、JSL生徒にとっては比較的得点を取りやすい科目であると考えられる。英語の場合は、リスニングのほかにも選択肢が英文で与えられているものがあるため、英語の不得手な日本人生徒よりも高い得点を取る生徒もいるであろう。数学の場合、数式・グラフ・図形は一種の世界言語であるため、設問の指示を除けば、日本語能力の不備の影響を受けない。また、計算問題も一定の割合で出題されることから、学習をサポートする指導者としても重要テーマを絞り込みやすい教科であると考えられる。

これに対して国語はJSL生徒にとっては最も得点を取りにくい科目である。まず、配点の10~20%をしめる古文と漢文では、選択形式の設問を除けば正答は期待できない。また、配点の10~15%をしめる漢字の読み・書きは、日常生活で用いる漢字よりも難しいものが出題されることが多いため、正答は困難である。残りの65~80%をしめる現代文で得点をあげることが必要となるが、国語の場合、比較的解答がしやすい選択形式の問題が出題されることは少なく、多くが記述や論述形式の設問である。内容も、説明文では抽象的な概念とそれをあらす語彙の理解が必須となり、小説では日本語の心情表

現に関する素養も必要となってくる。JSL生徒の学習効率を高めるためには、日本語の他に母語などを媒介語として使うことも考えられる。この方法について、加藤(2004)は社会科を対象に取り上げて調査をおこない、小学生段階では、抽象度の高い名詞については母語で未修得の場合、その活用に困難がともなうことを指摘している。この指摘では社会科を対象として小学生段階の母語での理解を重視しているが、国語の場合は名詞の対応だけでは不十分で、日本語の論理展開あるいは心情表現の方法について身につけている必要がある。このように考えると、国語の正答率は高くても10%台であると予想できる。漢字を使用しない地域出身の生徒の場合、正答率が0%となることもありえるだろう。

国語と比べると、理科と社会科では、選択形式の設問の割合が高いため、正答率が0%となることは少なく、確率に頼って解答したとしても、10~15%程度の正答率が期待できるであろう。

続いて、JSL生徒の受験戦略について考察する。いま、平均的な英語と数学の学力を持つJSL生徒を仮定しよう。この生徒は、両科目で平均点(55点)、他の科目ではそれぞれ10点を取ったとすると、合計で140点となる。国語では短期的には得点力を上げることは不可能であるため、学習の重点を他の科目に向けることになる。ここで理科と社会でそれぞれ20点を取ることができれば、合計点は160点となる。偏差

値 40 に相当する 200 点のラインには満たないが、それでも偏差値 36 程度には相当するため、合格をねらえる高等学校をみつけることができるであろう^(注12)。また、学校によっては、5 教科のうち出願時に申告した 3 教科の配点割合を増やして評価する制度を採用する場合もある。この場合、英語と数学の他に、理科か社会科のどちらかを選ぶことで、より優位性を高めることが可能になる。

このように、JSL 生徒が高等学校の入試を受けるうえで、理科と社会科は重要性を持つ。そのため、両科目の得点力を向上させるためにも、実際の設問をどれだけ正答できるのか、その実態調査をおこない、指導方法へフィードバックさせていく必要が出てくる。これに関しては、国際日本語普及協会（2010, 2014）などが中学校の学習につなげるために、社会科や理科の基本用語をまとめたテキストを作成している。しかし、これらの教材は、あくまでも教科を通しての日本語の習得や、学力の定着をはかるために作成されたものであり、入試対策を目的とはしていない。また、理科と社会科は、カリキュラムにおいてその位置づけは異なる。宮部（2008）は小学校の教科書について理科と社会科を比較し、社会科では複雑な連語が多用され、使用される他動詞には多義性があるという言語面の難しさに加えて、歴史分野などの日本独自の内容の存在が学習を困難にしていることを指摘している。このような教科の相違点に関しても現状を把握したうえで、受験戦略を練っていく必要がある。

3. 過去問解答調査

—理科と社会科—

入試対策をおこなうためには、生徒の学力を知ることが必要となる。JSL 生徒の学習指導をおこなう NPO などでは、日本語（国語）・数

学・英語の指導を中心におこなっている。時間の関係で理科と社会科の指導はおこなわないことが多いが、5 教科中の 2 教科という位置づけから無視できるものではない。

今回は、JSL 生徒の学習指導をおこなう NPO 団体のご協力のもとで、入試の直前期対策として、2020 年の 2 月に、3 日間にわたって理科と社会科の過去問を解答する体験授業を参与調査としておこなわせていただいた。

本章では調査の内容と概況について説明し、次章では設問単位での解答状況について考察していく。

3-1. 調査内容

調査目的

調査の目的としては、①実際の試験でどれくらいの得点が取れるか、②不正解の場合、日本語能力と学習知識のどちらに原因があるのか、そして③学習指導が得点に結びつく可能性の 3 つをあきらかにすることがあげられる。

調査のデザイン

実際の入試でどれくらいの得点が可能になるのかを知るためには、過去問を模擬試験の形式で解答することである程度の傾向をつかむことができる。しかし、この場合、単に正誤状況（得点）があきらかになるだけで、果たして得点の実力によるものなのかそれとも確率によるものかの判断をすることができない。そこで、実際の試験で出題された設問群を図 4 のように 2 種類にわけ、調査生徒には、小テストと過去問解答模擬試験の 2 種類の試験を解答してもらうこととした。

(A) 既習事項としての位置づけ（小テストへの利用）

実際の試験で使われた過去問を構成する 27～36 の設問のうち、比較的平易な設問として 10 問を選び出し、設問の内容を要約した小テスト

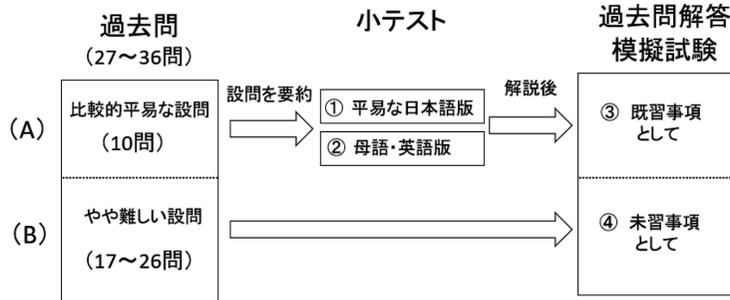


図4 調査に用いた設問の区分

として利用した。実際の試験において解答者は、設問から出題意図を読み取って、既習の知識と結びつけて正答を導くというプロセスをおこなう。この出題意図の読み取りを小テスト作成者が代わりにおこなうことで、正答に必要な基礎知識を生徒が理解しているかどうかをチェックすることを目的としている。また、解答にあたっては、各設問について、日本語と母語（もしくは英語）の2種類を用意し、「日本語→母語（英語）」の順に解答してもらった。これによって、不正解の設問については、「知識として理解できていないから解けない」場合と「日本語が理解できないから解けない」場合を区別する判断材料とした。

この10問については、小テストを解答した後で、設問の解説をおこなった。その後で、次にあげる(B)とともに、過去問解答の模擬試験として実際の試験に出題された形式のままで解答してもらった。これらの小テストで利用した10問は、過去問解答の模擬試験においては、日本での学習指導における「既習事項」の位置づけとした。この模擬試験では、これらの既習事項を実際の解答プロセスで使いこなすことができるかどうかの判断材料として活用した。なお、数十分前に解説として学んだ内容を既習事項として扱うことには議論が分かれるであろうが、ここでは、出題される問題に関連する知識が分かっている状態つまり、「ヤマ」がすべて当たった状態という最も極端な例として位置づけ

ている。この状態で正答できなければ、それは指導の効果がほとんど期待できない分野であるとみなすことができよう。

(B) 未習事項としての位置づけ（小テストへは利用せず）

残りの17~26問については小テストをおこなわず、日本での学習指導を受けていない「未習事項」と位置づけ、実際の試験でどれくらいの得点が可能となるかの判断材料として活用した。

調査でおこなう小テストと過去問解答の模擬試験は、次の4点について調査することを目的とする（番号は図4中の項目に対応している）。

- ① 基礎知識を日本語で理解できているか。
- ② 基礎知識を母語で理解できているか。
- ③ 小テストで解答・解説した知識に関する過去問を正答できるか（既習事項の解答状況）。
- ④ はじめて解く過去問を正答できるか（未習事項の解答状況）。

調査対象

調査は千葉県の学習支援団体Aの協力のもとでおこなった。この団体は、主として母国もしくは日本の中学校を卒業した外国出身の生徒を対象として、高校進学のための学習支援をおこなっているNPO組織である。生徒の多くは16~17歳であり、入試がおこなわれる2月から3月の時点で日本での滞在期間は1年前後となっている。授業は週5日前後、1日あたり4時間程度おこなわれており、指導教科は、日本

語、数学、英語が中心となっている。

今回は、中華人民共和国出身の4名、フィリピン出身の3名、アフガニスタン出身の2人、エルサルバドル・タイ・パキスタン・ブラジル出身の計4名、合計で13名に調査に協力してもらった。生徒の滞日期間は調査時点で2カ月から29カ月と多岐にわたっていた。解答した生徒達に共通することは、日本の授業を受けたことがほとんどなく、実際の入試の設問も解いた経験がないということである。なお、対象生徒の中には、今回の調査の前におこなわれた2019年8月の調査で、世界地理の設問を解いた生徒も数名いたが、実際の入試問題を解いた経験のある生徒はいなかった。

調査の日程と使用した設問

調査は普段の授業の時間帯に、次の日程でお

こなわれた。

2020（令和2）年2月4日（午後）社会科
（第1回：前期の設問）

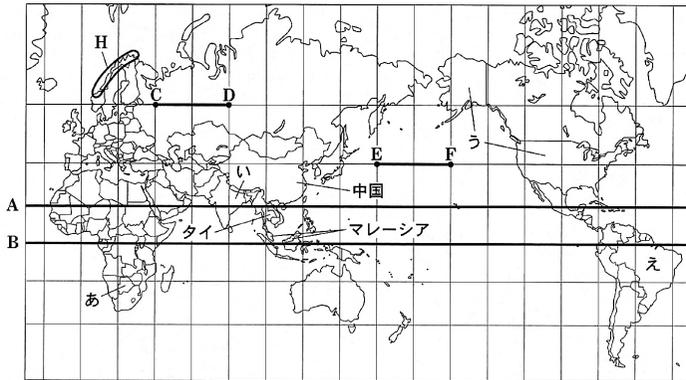
2020（令和2）年2月7日（午後）理科
（第1回：前期の設問）

2020（令和2）年2月18日（午前）社会科 /
（午後）理科（ともに第2回：後期の設問）

この時期は、授業が開始された4月から10カ月程過ぎた入試の直前期に対応する。

過去問解答模擬試験と小テストの対象として利用したものは、平成31年度の千葉県公立高等学校入学選抜で使用された理科と社会の設問である。設問はそれぞれ、前期と後期の2種類ある。授業時間の2時間を2つに分け、前半で小テストの解答と解説をおこない、休憩をささんで、後半に過去問解答の模擬試験をおこなった。

3 次の図は、緯線と経線が直角に交わる地図である。これを見て、あとの(1)~(5)の問いに答えなさい。



(注) 島等は省略したものもある。また、国境に一部未確定部分がある。

(1) 次の文は、図中の緯線A、緯線B、緯線の一部CD及び緯線の一部EFについて読み取れることがらをまとめたものである。文中の 、 にあてはまる語の組み合わせとして最も適当なものを、あとのア~エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

赤道を示しているのは であり、緯線の一部CDと緯線の一部EFは、地図上では同じ長さであるが、実際の距離が長いのは である。

- ア I : 緯線A II : 緯線の一部CD イ I : 緯線A II : 緯線の一部EF
ウ I : 緯線B II : 緯線の一部CD エ I : 緯線B II : 緯線の一部EF

(出所) 千葉県教育委員会。

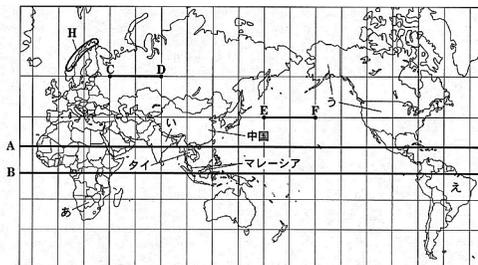
小テストの作成方法

小テストは、実際の過去問を加工して作成した。次にあげるのは、社会科（前期）の設問3(1)である。

調査対象の生徒は過去問解答の模擬試験では

この形の設問を解答をするが、これは初学者には解答が困難であると考え、設問の内容を要約し、小テストとして次のように加工した（小テストの日本語版は巻末資料参照）。

に入る正しい言葉の組み合わせをア～エから選びなさい。



(注) 島等は省略したものもある。また、国境に一部未確定部分がある。

赤道は です。

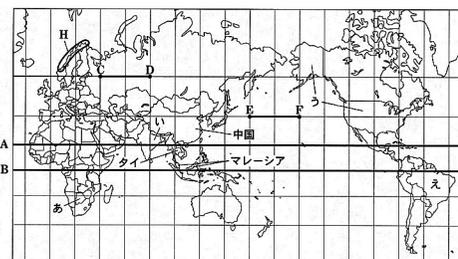
CD と EF は地図では同じ長さです。実際は の方が長くなります。

ア I : A II : CD イ I : A II : EF

ウ I : B II : CD エ I : B II : EF

なお、英語版では次のように加工している。

Choose the correct words combination in from ア to エ.



(注) 島等は省略したものもある。また、国境に一部未確定部分がある。

The equator is .

CD and EF are the same length on the map.

In fact, is longer.

ア I : A II : CD イ I : A II : EF

ウ I : B II : CD エ I : B II : EF

採点の基準

短答形式や記述形式の採点にあたっては、日本語の誤字や、英語で書いた場合のスペルの誤りなどがあっても正答として扱った。

調査時の確認事項

解答にあたっては、生徒間での相談、書籍の使用、通信機器の検索をひかえるように指示した。2019年の8月におこなった別の調査ではこれらの指示は徹底できず、お互いに教えあうほか、教員に尋ねる姿もみられたが、今回の調査は、試験直前ということで生徒も実際の試験と同じように設問を解答し、これらの指示は徹底できた。

以下では使用した設問の種類別に生徒の解答状況を分析していく。

3-2. 調査概況

表4は、調査の概況をまとめたものである。調査対象の13名のうち、すべての調査を受けたのは5人であるが、ここではそれぞれの項目について調査に参加したすべての生徒の得点を平均して示している。

小テストについてみると、両科目とも日本語で解答するものよりも母語・英語で解答する形式のほうが正答率は高くなっている。理科の第1回の小テストの正答率は、日本語解答が35.0%、母語・英語解答が43.8%、第2回は日本語解答が32.0%、母語・英語解答が34.0%となっている。社会科の場合、第1回は、日本語解答が14.3%、母語・英語解答15.0%、第2回は日本語解答が16.0%、母語・英語解答が23.6%となっている。小テストの元になった各設問について正答率を単純平均で求めると、理科は第1回が76.1%、第2回が76.1%、社会科は第1回が65.1%、第2回が75.1%となっている。社会科の第1回のみ正答率が低くなっているが、それを考慮に入れても、対象生徒の平均正答率は

理科の方が社会科よりも高くなっている。このことから、JSL生徒にとっては社会科よりも理科のほうが得点を得やすく、受験対策の効果が高いと考えられる。

ただ、実際の試験を受ける場合、受験者全体からみると、JSL生徒の正答率は低い。また、この小テストについては、元の設問の日本語表現と出題意図の読み取りは小テスト作成者（調査実行者）が代わりにおこなっている。よって、実際の試験における正答率はさらに低くなると考えられる。

過去問解答の模擬試験の平均点は、理科は第1回が24.6点、第2回が32.5点、社会科は第1回が25.5点、第2回が25.8点であった。実際の試験でこれくらいの得点を取ることができれば目標ラインは超えているといえるが、一部既に小テストで解説を受けた設問が含まれているため、生徒の学力を正確に反映したものとはいえない。調査では、授業の前半で小テストの解答・解説をおこない、休憩をはさんだ後半で、その小テストの元の問題も含まれる過去問数十問を解答してもらった。つまり、調査生徒は過去問の模擬試験を受ける30分くらい前に解説を受けた内容が含まれる設問群を解答しているわけである。これらの設問群を「既習事項」、それ以外を「未習事項」と分類し、それぞれの得点状況を比較する。

既習事項に関する設問の正答率は、理科は第1回が64.4%（実際の試験の正答率の平均は76.1%：以下同じ）、第2回が72.7%（76.1%）、社会科は第1回が58.1%（65.1%）、第2回が47.2%（75.1%）となっており、実際に試験を受けた受験生全体の平均正答率に近づいている。これは、「解いたことのある設問を解く」状態であるため、正答率が高くなるのは当然ともいえるが、既習事項に関する設問の中で、正答率が低いものがあれば、それらの設問に対する指導の効果は極めて低くなることが指摘できるのであ

表4 調査した生徒の正答率

		理科		社会科	
		第1回	第2回	第1回	第2回
小テスト	日本語で解答	35.0%	32.0%	14.3%	16.0%
	母語・英語で解答	43.8%	34.0%	15.0%	23.6%
	元の設問	76.1%	76.1%	65.1%	75.1%
過去問	合計	24.6%	32.5%	25.5%	25.8%
	既習事項	64.4%	72.7%	58.1%	47.2%
	未習事項	10.6%	13.6%	10.9%	13.7%
	元の設問	61.2%	61.3%	58.1%	66.6%

(注) 元の設問の正答率は、教育委員会発表の各設問の正答率の単純平均である。配点を加味した平均点は異なるが、各小問の配点はおおむね3点か4点なので、正答率の平均と平均点の差は1~2点程度におさまっている。

ろう。

小テストの対象としなかった設問群は「未習事項」として位置づけている。これらの未習事項の設問群の実際の試験における正答率は、理科は第1回が55.4%（既習事項の正答率の平均は76.1%：以下同じ）、第2回が54.3%（76.1%）、社会科は第1回が54.9%（65.1%）、第2回が61.6%（75.1%）となっており、小テストの対象とした既習事項の設問群よりは低くなっている。これらの設問を調査対象の生徒が解答した場合、未習事項の設問の正答率は、理科は第1回が10.6%、第2回が13.6%、社会科は第1回が10.9%、第2回が13.7%と、その正答率は極めて低くなっている。

ここから、実際の試験で取れる得点を想定してみよう。未習事項で取り上げた比較的高度な設問は、100点満点中70点前後の配点になる。これに、今回の過去問の正答率11~13%をかけると8~9点程度になる。残りの30点程度の、既習事項で取り上げた比較的基本的な設問の正答率を未習事項の正答率よりは高い20%と仮定すると期待できる得点は6点程度になる。両者を合わせた14~15点前後が、理科と社会の入試については、特別な対策をしない状態で得点できる平均的なラインとして想定することがで

きるであろう。

理科と社会科の入試対策としては、この10点台の得点を実際の試験で正答できる最低ラインとして設定し、各人の興味や学習状況によって重点を置いて指導する科目や分野・テーマを絞り込んでいく必要があると考えられる。

4. 小テストの正答状況

—学習内容と日本語の理解度—

各人が重点を置いて学習すべきテーマについて考察するために、過去問全体を解答した調査の正答状況を分析する。この分析の目的は、日本語がわからなくても正答の可能性があるテーマと、母語で出題されても正答が困難なテーマを選び出すことである。前者としては、母国で学習したテーマの中でも日本語の必要性が相対的に低いグラフ・イラスト・数式や世界地図などの視覚的要素が高いテーマが考えられ、後者としては日本の地理・歴史・政治経済などが考えられる。

以下では使用した設問の種類別に生徒の解答状況を分析していく。

本章では小テストの正答状況について分析する。

4-1. 理科の小テスト

(1) 第1回的小テスト

表5は、理科の第1回的小テストを受けた8名の解答状況を示したものである。生徒の平均得点は、日本語形式で10点中3.50点、母語・英語形式で4.38点となっている。

比較的正答率の高い設問として、正答率50.0%の(2)化学・ガスバーナーの使い方と(9)生物・遺伝の設問があげられる。次いで、正答率43.8%の設問としては、(1)物理・電子、(3)物理・電流の大きさ、(7)物理・おもりに、(10)地学・金星の見え方があ

る。これらは(1)を除いて、すべて資料として図が示されており、設問の意図と資料の情報を直観的に読み取ることができるタイプの設問である。また、(1)物理・電子も「放電管で真空放電が起きています。マイナス極からプラス極には何が向っていますか。」という設問に対して、「電子」「陽子」「中性子」「原子」の中から「電子」を選び出す選択形式の設問であることから、解答はしやすいと考えられる。設問中に「電」という漢字が多用されていること、そして「マイナス」と「プラス」という言葉があることから、当てずっぽうであっても「電子」を選ぶ確率は高くなるのだと考えられる。これは、こ

表5 理科の小テスト (前期)

生徒番号	設問番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計		
	分野		物理	化学	物理	化学	生物	生物	物理	化学	生物	地学	(10問中)		
	解答形式		4択	4択	4択	4択	4択	4択	4択	4択	4択	4択			
出身国	滞日月数	電子	ガスバーナーの使い方	電流の大きさ	水溶液	デンブン反応	ヨウ素	光合成	はたらく水圧	おもりに	質量保存の法則	遺伝	金星の見え方	日本語	母語・英語
1	ブラジル	29	×	◎	×	×	×	×	×	×	○	●		2	2
2	アフガニスタン	26													
3	アフガニスタン	25	○	●	◎	×	○	○	●	×	×	●		4	4
4	タイ	23	●	×	×	×	×	●	×	×	●	●		0	4
5	フィリピン	18	○	●	◎	◎	×	×	×	×	●	●		3	5
6	フィリピン	12													
7	中国	11													
8	パキスタン	10													
9	フィリピン	10													
10	中国	7	◎	◎	×	◎	●	◎	●	○	○	×		6	6
11	中国	7	×	○	×	×	◎	×	◎	×	◎	×		4	3
12	中国	5	◎	○	●	◎	×	●	◎	×	×	●		4	6
13	エルサルバドル	2	×	×	◎	×	●	×	○	◎	◎	◎		5	5
正答率	調整済	43.8%	50.0%	43.8%	37.5%	31.3%	31.3%	43.8%	18.8%	50.0%	43.8%				
	日本語	50.0%	50.0%	37.5%	37.5%	25.0%	25.0%	37.5%	25.0%	50.0%	12.5%			3.50	4.38
	母語・英語	37.5%	50.0%	50.0%	37.5%	37.5%	37.5%	50.0%	12.5%	50.0%	75.0%				
	実際の入試	88.4%	77.3%	78.4%	79.2%	98.1%	72.3%	70.9%	68.6%	84.0%	43.5%				

(注) 滞日月数は調査時点(2020年2月)での数値。解答状況の区分：◎…日本語でも母語・英語でも正解。○…日本語では正解。●…母語・英語では正解。×…日本語でも母語・英語でも不正解。

の設問自体が比較的平易であることとも関係している。実際、(1)の設問は、入学試験での正答率は88.4%であり、ここにあげた10問の中で2番目に解きやすい設問である。ただ、簡単な問題だからといって、必ずしもJSL生徒が解けるというわけではない。実際の試験ではほぼ全員(98.1%)が正答している(5)生物・ヨウ素デンプン反応の設問は、対象生徒のうち31.3%しか正答できていない。これは、「葉にヨウ素液をつけたら青紫色」になるという「デンプン」の性質を理解していなければ解けないため、日本語の理解が不十分な生徒にとっては正答が難しいのだと考えられる(他の選択肢は「タンパ

ク質」「二酸化炭素」「酸素」)。

正答率が低い設問としては、正答率が18.8%の(8)化学・質量保存の法則がある。この設問は、「化学変化の前と後では、物質全体の質量は変化しない」理由について問われており、正答にいたるには、原子の「組み合わせ」「種類」「数」という3つの知識について正確な理解が必要となってくるからである。

(2) 第2回の小テスト

表6は、理科の第2回の小テストを受けた11名の解答状況を示したものである。生徒の平均得点は、日本語形式で10点中3.20点、母語・

表6 理科の小テスト(後期)

生徒番号	設問番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計		
	分野		地学	生物	化学	化学	物理	地学	化学	化学	物理	生物	(10問中)		
	解答形式		4択	4択	記述	記述	4択	4択	4択	4択	4択	4択			
	出身国	滞日月数	石灰岩	顕微鏡の使い方	電離「 H^+ 」「 Cl^- 」 塩化水素の	「電解質」	エネルギー	小球の運動	日周運動	エタノールの取り出し方	蒸留	電流と磁界	網膜	日本語	母語・英語
1	ブラジル	29			×	×	×							2	2
2	アフガニスタン	26			○	×	×							4	未
3	アフガニスタン	25													
4	タイ	23	◎	×	×	×	○	×	○	●	◎	●		4	4
5	フィリピン	18	○	×	×	×	◎	×	×	◎	×	○		4	2
6	フィリピン	12	○	×	×	×	×	○	×	×	○	×		3	0
7	中国	11	●	×	●	×	●	×	×	●	●	●		未	6
8	パキスタン	10	◎	×	×	×	◎	◎	×	◎	×	×		4	4
9	フィリピン	10	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	×		1	1
10	中国	7													
11	中国	7	◎	×	×	×	×	◎	×	◎	◎	●		4	5
12	中国	5	◎	×	×	×	×	◎	×	◎	◎	×		4	4
13	エルサルバドル	2	●	●	×	×	◎	◎	×	●	●	×		2	6
正答率		調整済	60.0%	5.0%	10.0%	0.0%	40.0%	60.0%	5.0%	70.0%	55.5%	25.0%	3.20	3.40	
		日本語	60.0%	0.0%	10.0%	0.0%	40.0%	70.0%	10.0%	60.0%	50.0%	20.0%			
		母語・英語	60.0%	10.0%	10.0%	0.0%	40.0%	50.0%	0.0%	80.0%	60.0%	30.0%			
		実際の入試	66.4%	81.3%	88.8%	89.7%	83.4%	97.9%	21.6%	89.7%	63.9%	78.7%			

(注)「未」は未解答(以下同)。そのため、正答率は全解答者の11人ではなく、日本語形式と母語・英語形式の解答者数である10人で割って求めている。

英語形式で 3.40 点となっている。

比較的正答率の高い設問として、正答率 70% の (8) 化学・蒸留があげられる。これは、「液体を沸騰させると気体になります。この気体は液体になります。このことを何といいますか。」という設問に対して、「燃焼」「蒸留」「還元」「ろ過」の中から「蒸留」を選び出す選択形式の設問である。これは、第 1 日目の (1) 物理・電子と同様、定義と名称を結びつけるタイプの設問である。なお、この設問は実際の試験の正答率が 89.7% と、この 10 問の中では 2 番目に解きやすい設問であることも関係しているであろう。次に正答率が高い (60.0%) (1) 地学・石灰岩と (6) 地学・日周運動も定義と名称に関する設問であることから正答は得られやすい。特に (6) は、実際の試験の正答率が 97.9% とほぼ全員が正答できるレベルであるのに加えて、図も示されていることから正答しやすいと考えられる。その次に正答率が高い (55.0%) (9) 物理・コイルと方位磁針は図が多用されており、設問意図と読み取る情報が一目瞭然である。母国で学習経験があれば、日本語が全く理解できなくても正答を得ることができるかもしれない。

しかし、一般の日本人生徒にとって解きやすい設問だからといって、JSL 生徒が正答できるとは限らない。たとえば、(4) 化学・電解質は実施の試験の正答率が (1) と同様の 89.7% と 10 問の中で 2 番目に高いが、これは「電解質」という用語を書く設問であり、日本語の表現でも、英語表現 (Electrolytes) でも調査対象の生徒の中で正答できた者はいない。また、(2) 生物・顕微鏡の使い方と (7) 化学・エタノールの取り出し方の正答率も 5.0% と低い。前者は選択肢の文章を読み取る必要があること、後者は設問の図と選択肢の図を結びつけるやや高度な設問 (実際の試験の正答率は 21.6% と非常に低い) であることが理由として考えられる。

4-2. 社会科の小テスト

(1) 第 1 回的小テスト

表 7 は、社会科の第 1 回的小テストを受けた 7 名の解答状況を示したものである。生徒の平均得点は、日本語形式で 10 点中 1.43 点、母語・英語形式で 1.50 点となっており、理科と比べると低くなっている。

理科では正答率の高い設問を紹介したが、社会科の場合はむしろ、正答者のいない設問からみたほうが試験対策としては役立つであろう。正答者がゼロの設問は 10 問中 5 問ある。このうち、(2) 政治・国会議員、(6) 世界地理・フィヨルド、(9) 公民の国際・BRICS の 3 つはそれぞれ、「国会議員」「フィヨルド」「BRICS」を書く設問であり、(8) 世界地理・東南アジアの輸出品目に関する設問は、資料を読み取って工業化が進んだ近年は「資源や農産物から機械類などの工業製品」に変化していることを論述する設問である。これらの設問は、JSL 生徒はまず生徒が期待できない解答形式であることが読み取れる。また、(5) 世界地理・ダイヤモンドの生産地は、産出国を示した円グラフの空欄の国について地図に示された 4 つの国 (ボツワナ・インド・アメリカ合衆国・ブラジル：国名は記されていない) の中からボツワナに該当する場所を選ぶ設問である。このような、資料と資料を結びつける設問は理科の第 2 回の (7) 化学・エタノールの取り出し方と同様に、解答が難しいタイプであることがわかる。

(1) 第 2 回的小テスト

表 8 は、社会科の第 2 回的小テストを受けた 11 名の解答状況を示したものである。生徒の平均得点は、日本語形式で 10 点中 1.60 点、母語・英語形式で 2.36 点となっており、第 1 回と同様に、理科の正答率よりも低くなっている。

比較的正答率の高い設問として、正答率 57.3

％の(2)日本地理・日本海側の気候があげられる。これは日本地図に示された場所(北陸地方)で1月に雪が多い理由として、「北西の季節風」の影響を選ぶものである(他の選択肢は「南東」「南西」「北東」の季節風)。本来、この設問は正答を得るためには、①地図から日本海側に関する設問であることを読み取り、②雪が降る理由として、③北西の季節風が、④山にぶつかり雨が降り、⑤寒いので雪が降るという思考が必要となる。しかし、日本地図には東京都の位置も示されているため、直観的には、「地図上に示された位置(北陸地方)は東京都からみてどの方向になるか」という設問としてとらえた可能性

があげられる。この場合も、方向は北西になるため、たまたま正答である「北西の季節風」を選んだ可能性も否定できない。選択形式の設問の場合、このような偶然の一致があるので、日本語理解が不十分だからといって解答を諦めることはないと言指導することもできるであろう。

ただ、このような比較的高い正答率の設問は例外であり、正答率が極めて低いもののほうが多い。正答者がゼロの設問は10問中2問ある。これは、(1)日本地理・再生可能エネルギーと(4)世界地理・サンベルトの2つであり、それぞれ、「再生可能」と「サンベルト」を書く設問である。また、(8)公民の経済・セーフティ

表7 社会科の小テスト(前期)

設問番号			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計		
分野			前近代史	政治	日本地理	世界地理	世界地理	世界地理	世界地理	世界地理	国際	国際	(10問中)		
解答形式			4択	記述	4択	4択	4択	記述	4択	論述	記述	4択			
生徒番号	出身国	滞日月数	氷河期の終わり	「国会議員」	食料自給率	赤道と経線	ダイヤモンドの生産地	「フィヨルド」	中国の農業	東南アジアの輸出品目	「BRICS」	モノカルチャー経済と南南問題	日本語	母語・英語	
1	ブラジル	29	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	2	0	
2	アフガニスタン	26													
3	アフガニスタン	25	×	×	×	◎	×	×	◎	×	×	×	2	2	
4	タイ	23	●	×	×	×	×	×	×	×	×	●	0	2	
5	フィリピン	18	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	1	0	
6	フィリピン	12													
7	中国	11													
8	パキスタン	10													
9	フィリピン	10													
10	中国	7	◎	×	◎	●	×	×	◎	×	×	×	3	4	
11	中国	7	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	1	未	
12	中国	5													
13	エルサルバドル	2	×	×	×	◎	×	×	×	×	×	×	1	1	
正答率			調整済	31.0%	0.0%	22.6%	46.4%	0.0%	0.0%	38.1%	0.0%	0.0%	8.3%	1.43	1.50
			日本語	28.6%	0.0%	28.6%	42.9%	0.0%	0.0%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%		
			母語・英語	33.3%	0.0%	16.7%	50.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%		
			実際の入試	68.6%	68.2%	87.7%	62.3%	49.6%	58.4%	69.9%	63.7%	55.5%	66.9%		

ネットも正答率は9.1%と低い。この設問は選択形式の設問であるが、セーフティーネットの定義について、選択肢の文章を読み取る必要があるため、正答が得にくいと考えられる。

このほかに、JSL生徒が抱える課題を端的に表している設問として(10)公民の政治・世論について触れておきたい。この設問は、世論の定義について、「社会」や「人々」の2つの語を用いて20字以内で書く設問である。正答例としては「(政治や)社会について、多くの人々もっている意見」があげられている。日本語での正答者はゼロであったが、母語・英語でこれ

に近い説明を書いた生徒は部分点も含めると11名中6名いた(54.5%)。対象生徒が書いたものとして次の2つをあげておく。

(解答例1) *“Public opinion” is a public opinion told by the people who are against society.*

(解答例2) *Public opinion is what the people would want to say in their society. It is the rights of people to tell their words without being restricted.*

特に後者は非常に水準の高い解答であるが、日本語で書く技術が足りないため正答を示すことができないでいる。

表8 社会科の小テスト(後期)

生徒番号	設問番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計		
	分野		日本地理	日本地理	世界地理	世界地理	世界地理	前近代史	国際	経済	経済	政治	(10問中)	日本語	母語・英語
	解答形式		記述	4択	4択	記述	4択	4択	4択	4択	4択	論述			
	出身国	滞日月数	「再生可能」 エネルギー	日本海側の気候	正距方位図法	「サンベルト」	オーストラリアと アジア	孔子と関係のある 文明	京都議定書	セーフティーネット	日銀の政策	世論の定義			
1	ブラジル	29	×	◎	×	×	◎	●	◎	×	×	×	3	4	
2	アフガニスタン	26													
3	アフガニスタン	25	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	1	0	
4	タイ	23	×	×	●	×	×	×	×	●	○	×	1	2	
5	フィリピン	18	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	●	1	2	
6	フィリピン	12	×	×	◎	×	×	◎	×	×	○	●	3	3	
7	中国	11	×	●	●	×	●	×	×	×	●	×	未	4	
8	パキスタン	10	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	0	1	
9	フィリピン	10	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	0	1	
10	中国	7													
11	中国	7	×	◎	◎	×	●	×	×	×	◎	●	3	5	
12	中国	5	×	◎	×	×	×	×	○	●	×	●	2	3	
13	エルサルバドル	2	×	◎	○	×	×	×	×	×	×	×	2	1	
正答率			調整済	0.0%	57.3%	33.2%	0.0%	18.6%	14.1%	14.5%	9.1%	24.1%	27.3%	1.60	2.36
			日本語	0.0%	60.0%	30.0%	0.0%	10.0%	10.0%	20.0%	0.0%	30.0%	0.0%		
			母語・英語	0.0%	54.5%	36.4%	0.0%	27.3%	18.2%	9.1%	18.2%	18.2%	54.5%		
			実際の入試	77.8%	79.3%	86.6%	76.1%	65.0%	79.1%	88.3%	51.0%	82.6%	64.7%		

5. 過去問の正答状況

— 既習事項と未習事項 —

次に、実際の過去問を解く模擬試験形式の調査の正答状況について分析する。この調査では、理科と社会科の過去問について前期と後期の合計4種類利用している。それぞれの過去問は、前章で分析した小テストの設問に使用した設問群と未使用の設問群に分類できる。ここでは、前者を「既習事項」、後者を「未習事項」と位置づけ、学習対策の短期的な効果を見ていくこととする。解説を受けてから30分程度の後に解答できるのは当然とも考えられるが、ここで正答できない設問がある場合、それらはJSL生徒が最低限の得点を取るうえで効果が薄く、学習対象から除外してもよいと判断することもできよう。

5-1. 理科の過去問

(1) 第1回の過去問

第1回の理科の過去問解答調査で用いた平成31年度理科（前期）の設問は、大問9・小問36で構成されている。既習事項（小テストの対象としたもの）は10問（配点26点）、未習事項（小テストの対象外としたもの）は26問（配点74点）となっている。なお、実際に実施された試験の平均点は60.6点（標準偏差20.8）となっている。

表9は、第1回の理科の過去問解答調査を受けた8名の解答状況について、既習事項と未習事項にわけて正答率が高い順に並べたものである。調査対象生徒の平均得点は、合計点で24.6点、既習事項は16.8点（正答率64.4%）、未習事項は7.9点（正答率10.6%）となっており、既習事項の正答率が高いことがわかる。

なお、表中の記号の意味と指導上の位置づけは以下の通り。

（既習事項について）

○…小テストも過去問も正答。重点的な学習の効果が期待できる。

△…小テストは不正解だが過去問は正解。解説の効果があつたとみなされる。

▲…小テストは正解だが過去問は不正解。理解が不十分であったことがわかる。

■…小テストも過去問も不正解。重点的な学習の効果は低いと考えられる。

（未習事項について）

◎…予備知識なしでも正答ができたもの。正答できた理由を考察する必要がある。

×…予備知識なしでは正答ができなかったもの。正答が困難なものと、可能なものを区別する必要がある。

既習事項の各設問について正答率を比較すると、「1.1 物理・真空放電」（小テスト①：以下同じ）と「3.2 物理・直列回路と並列回路」（③）が87.5%、「1.3 化学・ガスバーナーの調整」（②）と「8.23 生物・遺伝」（⑨）が75.0%となっている。「1.1」以外は資料として図が示されている設問であり、小テストで解答した知識を活用しやすかったためと考えられる。これに対して、正答率が37.5%と低い「5.2 生物・光合成」（⑥）は、正答を導くにあたって、図の他に、設問の文章と選択肢の語群をすべて理解する必要がある。ただ、すべて選択形式の設問であることから、ともかくも解答を記すことはできるため、正答者がゼロの設問はなかった。

未習事項の設問についてみると、26問中15問が正答者ゼロとなっている。これらの15問のうち、10問が用語を書く記述形式であり（うち1問は計算問題）、3問が論述形式の設問（うち1問は作図問題）である。反対に、正答率が高い設問としては、「2.4 地学・空気の膨張と温度低下」（正答率62.5%）と「9.4 地学・金星と地球の公転」（50.0%）があげられる。前者は文章

表 9 理科の過去問 (前期)

既習か未習か	設問番号	解答形式			設問の内容	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	調査対象生徒	実際の入試	正答率			
		分野	選択	記述		小テスト	ブラジル	アフガニスタン	アフガニスタン	タイ	フィリピン	フィリピン	中国	パキスタン	フィリピン	中国	中国	中国				エルサルバドル		
既習	1.1	物	選		① 真空放電	△		▲	○	○								○	△	87.5%	88.4%			
	3.2	物	選		③ 直列回路と並列回路	△		○	△	○								△	▲	87.5%	78.4%			
	1.3	化	選		② ガスバーナーの調整	○		▲	■	○								○	○	75.0%	77.3%			
	8.23	生	選		⑨ 遺伝子	▲		△	○	○								○	○	75.0%	84.0%			
	6.2 a	物	選		⑦ おもりにたらく水圧	△		▲	△	△								○	○	62.5%	70.9%			
	4.2	化	選		④ ビーカー内の液の性質	△		■	■	○								○	△	50.0%	79.2%			
	5.1	生	選		⑤ ヨウ素デンプン反応	△		▲	■	■								○	△	50.0%	98.1%			
	7.12	化	選		⑧ 化学変化の前後で物質全体の質量が変化しない理由	■		■	△	■								○	△	50.0%	68.6%			
	9.3	地	選		⑩ 金星の見かけの形	▲		▲	○	○								△	■	50.0%	43.5%			
	5.2	生	選		⑥ 光合成	■		▲	▲	■								○	△	37.5%	72.3%			
未習	2.4	地	選		空気膨張と温度低下	×		×	×	◎							◎	◎	◎	◎	62.5%	37.9%		
	9.4	地	選		金星と地球の公転	×		◎	◎	×								◎	◎	×	×	50.0%	37.3%	
	3.1	物	(計)		抵抗器 a の抵抗値	◎		◎	×	◎								×	×	×	×	37.5%	75.9%	
	9.2	地	選		金星が見える時間帯と方位	◎		×	◎	×								×	×	×	◎	37.5%	57.8%	
	2.3	地	選		気圧の変化と地表からの高さ	×		×	×	×								◎	×	×	×	12.5%	75.0%	
	4.1	化	選		酸と金属の反応	×		×	×	×								×	×	×	◎	12.5%	57.7%	
	5.4	生	選		実験を行った理由	×		◎	×	×								×	×	×	×	12.5%	40.6%	
	6.1 a	物	記		「フック」の法則「比例」	◎		×	×	×								×	×	×	×	12.5%	75.6%	
	6.1 b	物	記		グラフの解釈とおもりの個数	◎		×	×	×								×	×	×	×	12.5%	68.5%	
	7.21	化	(作)		炭酸水素ナトリウムと質量	×		×	×	×								×	◎	×	×	12.5%	34.6%	
	8.21	生	選		記号を用いた遺伝の表現	×		×	×	×								◎	×	×	×	12.5%	63.2%	
	1.2	地	記		「深成岩」	×		×	×	×								×	×	×	×	0.0%	80.7%	
	1.4	生	記		「生産者」	×		×	×	×								×	×	×	×	0.0%	75.8%	
	2.1	地	記		「飽和水蒸気量」	×		×	×	×								×	×	×	×	0.0%	81.5%	
	2.2	地	選		雲の発生	×		×	×	×								×	×	×	×	0.0%	65.0%	
	3.3 a	物	(作)		未知の回路図の完成	×		×	×	×								×	×	×	×	0.0%	16.2%	
	3.3 b	物	選		未知の抵抗器の特定	×		×	×	×								×	×	×	×	0.0%	21.1%	
	4.3 a	化	記		「水素イオン」「水酸化物イオン」「水」	×		×	×	×								×	×	×	×	0.0%	36.5%	
	4.3 b	化	記		中和と化学式「NaCl」	×		×	×	×								×	×	×	×	0.0%	51.2%	
	5.3	生	記		「蒸散」	×		×	×	×								×	×	×	×	0.0%	85.6%	
6.2 b	物	論		ばねの伸び「重力と浮力の合力の大きさ」	×		×	×	×								×	×	×	×	0.0%	30.7%		
7.11	化	記		「質量保存」の法則	×		×	×	×								×	×	×	×	0.0%	87.4%		
7.22	化	(計)		ビーカー内に残る炭酸水素ナトリウムの質量	×		×	×	×								×	×	×	×	0.0%	12.5%		
8.1	生	記		「対立形質」	×		×	×	×								×	×	×	×	0.0%	49.0%		
8.22	生	論		減数分裂「染色体の数は半分になる。」	×		×	×	×								×	×	×	×	0.0%	60.5%		
9.1	地	記		「地球型惑星」	×		×	×	×								×	×	×	×	0.0%	63.7%		
得点	合計点 (100 点中)					26		15	22	25								38	33	9	29	24.6	60.6%	
	既習事項の得点 (26 点中)					15		6	17	19									26	23	6	22		16.8
	未習事項の得点 (74 点中)					11		9	5	6										12	10	3		7
正答率	既習事項の正答率					57.7%		23.1%	65.4%	73.1%									100.0%	88.5%	23.1%	84.6%	64.4%	76.1%
	未習事項の正答率					14.9%		12.2%	6.8%	8.1%										16.2%	13.5%	4.1%	9.5%	10.6%

(注) 分野の区分：物…物理，化…化学，生…生物，地…地学。解答形式の区分のうち，(計)は計算問題，(作)はグラフなどの作図を表している。解答状況の区分：○…小テストも過去問も正答。△…小テストは不正解だが過去問は正解。▲…小テストは正解だが過去問は不正解。■…小テストも過去問も不正解。◎…予備知識なしでも正解。×…予備知識なしでは不正解。なお，サイトの出身地域の下の数値は調査時点の滞日月数である。

表 10 理科の過去問（後期）

既習か未習か	設問番号	解答形式			設問の内容	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	正答率	
		分野	選択	記述		小テスト	ブラジル	アフガニスタン	アフガニスタン	タイ	フィリピン	フィリピン	中国	パキスタン	フィリピン	中国	中国	中国	エリサルバドル	調査対象生徒
既習	3.1	化	記	③	塩化水素のイオン式「H」「Cl」	△	○		△	△	△	△	△	△		△	△	△	100.0%	88.8%
	6.1	化	選	⑦	エタノールの取り出し方	△	△		○	△	△	△	△	△		△	△	△	90.9%	21.6%
	1.2	地	選	①	石灰岩	△	■		○	○	○	○	○	△		○	○	▲	81.8%	66.4%
	2.3	生	選	②	顕微鏡の使い方	△	△		△	△	△	△	■	■		△	△	○	81.8%	81.3%
	4.3	物	選	⑤	小球の運動エネルギー	△	■		○	○	△	○	○	△		△	■	○	81.8%	83.4%
	5.1	地	選	⑥	太陽の一日の動き	■	▲		△	△	○	○	△	▲		○	○	○	72.7%	97.9%
	6.2	化	選	⑧	蒸留	▲	○		▲	△	△	○	○	△		○	○	▲	72.7%	89.7%
	7.1	物	選	⑨	電流と磁界の向き	○	■		○	○	○	○	■	■		○	○	○	72.7%	63.9%
	8.1 a	生	選	⑩	光と感覚器官	■	▲		▲	△	△	○	■	■		○	△	■	45.5%	78.7%
	3.3	化	記	④	「電解質」	■	■		■	■	■	△	■	■		△	■	■	18.2%	89.7%
未習	1.3	地	選		断層による地層のずれ	×	×		◎	×	◎	◎	◎		×	◎	◎	◎	63.6%	79.4%
	2.2	生	選		採集の方法	◎	◎		×	×	×	×	◎	◎		◎	◎	×	54.5%	64.3%
	3.4	化	選		化学変化と電気エネルギー	×	◎		◎	×	◎	×	×	◎		×	×	×	36.4%	72.2%
	5.3	地	選		地軸の傾き	×	◎		×	×	◎	×	◎	◎		×	×	×	36.4%	32.1%
	5.2	地	選		日の出の時刻	×	×		×	×	×	◎	◎	◎		×	×	×	27.3%	45.6%
	4.1	物	(計)		小球の平均の速さ	×	×		×	×	×	×	×	×		◎	×	◎	18.2%	63.5%
	4.2	物	選		斜面上を動く小球にはたらく力	×	◎		×	×	×	×	◎	×		×	×	×	18.2%	19.2%
	8.1 b	生	選		神経系の名称	×	×		×	×	×	×	×	×		◎	◎	×	18.2%	84.6%
	8.2	生	選		刺激に対する反応時間	×	×		×	◎	×	×	×	◎		×	×	×	18.2%	27.6%
	3.2	化	選		塩酸中の亜鉛板と銅板の変化	×	×		×	×	×	×	×	◎		×	×	×	9.1%	54.8%
未習	5.4	地	選		赤道における太陽の通り道	×	×		×	×	×	×	×	×		◎	×	×	9.1%	27.9%
	1.1	地	記		「風化」	×	×		×	×	×	×	×	×		×	×	×	0.0%	75.1%
	1.4	地	(計)		地層の対比	×	×		×	×	×	×	×	×		×	×	×	0.0%	37.2%
	2.1	生	選		ミカヅキモと同じ単細胞生物	×	×		×	×	×	×	×	×		×	×	×	0.0%	48.6%
	2.4	生	記		無性生殖	×	×		×	×	×	×	×	×		×	×	×	0.0%	78.0%
	4.4	物	記		力学的エネルギーの保存	×	×		×	×	×	×	×	×		×	×	×	0.0%	71.5%
	6.3	化		論	エタノールの特徴	×	×		×	×	×	×	×	×		×	×	×	0.0%	76.5%
	6.4	化	(計)		質量パーセント濃度	×	×		×	×	×	×	×	×		×	×	×	0.0%	28.8%
	7.2	物		論	コイルが大きく動いた理由	×	×		×	×	×	×	×	×		×	×	×	0.0%	47.6%
	7.3	物	選		電流が流れている金属が磁界から受ける力の向き	×	×		×	×	×	×	×	×		×	×	×	0.0%	44.3%
8.3	生		論	反射の特徴	×	×		×	×	×	×	×	×		×	×	×	0.0%	61.2%	
得点					合計点 (100 点中)	23	25		29	32	38	38	34	37		44	32	26	32.5	
					既習事項の得点 (32 点中)	20	13		23	29	29	32	19	16		32	23	20	23.3	61.6%
					未習事項の得点 (68 点中)	3	12		6	3	9	6	15	21		12	9	6	9.3	
正答率					既習事項の正答率	62.5%	40.6%		71.9%	90.6%	90.6%	100.0%	59.4%	50.0%		100.0%	71.9%	62.5%	72.7%	76.1%
					未習事項の正答率	4.4%	17.6%		8.8%	4.4%	13.2%	8.8%	22.1%	30.9%		17.6%	13.2%	8.8%	13.6%	54.3%

から圧力の変化で雲が発生することを読み取り、選択肢から「適切でないもの」として気圧の変化以外で発生する雲の例を解答する複雑な設問であり、実際の試験の正答率は 37.9% と低い。後者は、設問に示された金星の公転周期（約 0.62 年）が 7.44 か月であることを求め、こ

こから 1 か月の公転角度が約 48 度であることを計算し、さらに地球の公転角度（約 30 度）との差を求め（ $48 - 30 = 18$ 度）、最終的に金星が地球に最も近づく時期（ $90 \div 18 = 5$ か月後）を計算する設問であり、実際の試験の正答率は 37.3% と低くなっている。このような複雑な設

問で正答率が高いこと理由は明らかでないが、選択形式の設問については、難易度と無関係に、確率的に正答を得られる場合があることは指摘できるであろう。

(2) 第2回の過去問

第2回の理科の過去問解答調査で用いた平成31年度理科(後期)の設問は、大問8・小問31で構成されている。小テストの対象とした既習事項は10問(配点32点)、対象外とした未習事項は21問(配点68点)となっている。なお、実際に実施された試験の平均点は61.6点(標準偏差19.3)となっている。

表10は、第2回の理科の過去問解答調査を受けた11名の解答状況を示したものである。調査対象生徒の平均得点は、合計点で32.5点、既習事項は23.3点(正答率72.7%)、未習事項は9.3点(正答率13.6%)となっている。第1回の合計点の平均の24.6点(実施された試験の平均は60.6点)と比較すると、6.9点高くなっている。

既習事項の各設問について正答率を比較する。まず、「3.1 化学・塩化水素の電離」(小テスト③:以下同じ)の正答率が100.0%となっている。この設問は記述形式であるため、本来は正答率が低くなる(小テストでは正答率10.0%)。しかし、正答は「 $H^+ + Cl^-$ 」となるため、事前に解説を受けていれば正答することは容易である。次に、「6.1 化学・エタノールの取り出し方」(⑦)が90.9%、「1.2 地学・石灰岩」(①)「2.3 生物・顕微鏡の使い方」(②)「4.3 物理・小球の運動エネルギー」(⑤)が81.8%と続く。小テストの正答率をみると、「1.2」は60.0%で「4.3」は40.0%、「6.1」と「2.3」が5.0%というようにそれほど高くはないが、過去問の正答率をみると、解説をおこなった効果はあるといえよう。これに対して、正答率が18.2%と低い「3.3 化学・電解質」(④)は、正答として「電解質」を記述する設問であるため、漢字使用地域の生徒

以外は正答することができないでいる。

未習事項の設問についてみると、21問中10問が正答者ゼロとなっている。これらの10問のうち、5問が用語を書く記述形式であり(うち2問は計算問題)、3問が論述形式の設問である。反対に、正答率が高い設問としては、「1.3 地学・断層による地層のずれ」(正答率63.6%)と「2.2 生物・採集の方法」(54.5%)があげられる。前者は設問と選択肢の模式図を結びつける設問であり、日本語理解力にはほとんど左右されずに解答が可能である。実際の試験の正答率は79.4%と比較的高い。後者はプランクトンを採集するネットのイラストが示されていて、微小な生物を採集する方法として、「適当でないもの」を選ぶ設問である。選択肢は文章の形であるが、文章の「深さを変える」「季節を変える」「網目…大きいものにする(正答に該当)」「回数を増やす」の部分が読み取れば正答は容易である。ただ、正答を選ぶためには、「微小な生物を採集する方法」という出題の意図と「適当でないもの」を選ぶという解答上の指示を正確に理解する必要がある。問題用紙では解答上の指示の「適当でない」の部分は太文字となっているが、この指示を正しく把握していないことも考えられる。このような可能性は、「2.1 生物・ミカヅキモと同じ単細胞生物」を選択肢から「すべて選び」という指示(正答は5つの選択肢のうち2つになる)に反して、全員が解答を1つだけ選んでいることから読み取ることができる。もし、設問の指示を正反対に理解したにも関わらず正答を選んでいるとすると、本来の正答プロセスを無視したことになってしまう。「とにかく正答すればよい」というJSL受験戦略には、このような学習上の問題も含まれている。

5-2. 社会科の過去問

(1) 第1回の過去問

第1回の社会科の過去問解答調査で用いた平成31年度社会科（前期）の設問は、大問8・小問32で構成されている。小テストの対象とした既習事項は10問（配点31点）、対象外とした未習事項は22問（配点69点）となっている。なお、実際に実施された試験の平均点は56.6点（標準偏差20.9）となっている。

表11は、第1回の社会科の過去問解答調査を受けた8名の解答状況を示したものである。調査対象生徒の平均得点は、合計で25.5点、既習事項は18.0点（正答率58.1%）、未習事項は7.5点（正答率10.9%）となっている。未習事項の正答率は理科の第1回（10.6%）とほとんど変わらないが、既習事項の正答率は理科の第1回（64.4%）と比べると低くなっている。

既習事項の各設問のうち、正答率の高いものをみると、「1.3 日本地理・日本の食料自給率」（小テスト③：以下同じ）「3.1 世界地理・赤道と緯線」(④)「3.2 世界地理・ダイヤモンドの生産地」(⑤)が100.0%、「1.1 前近代史・氷河期の終わり」(①)が87.5%、「3.4 世界地理・中国の農業」(⑦)が75.0%となっている。小テストの正答率をみると、「1.3」(③)が22.6%、「3.1」(④)が46.4%、「3.2」(⑤)が0.0%、「1.1」(①)が31.0%、「3.4」(⑦)が38.1%となっている。これらはすべて選択形式の設問であるため、正答を得るには設問の情報を読み取る必要がある。しかし、小テストの数十分後にこの過去問解答調査はおこなわれているため、正答を覚えていて選択している可能性は否定できない。これらの設問に対して、「3.3 世界地理・フィヨルド」(⑥)と「8.1 公民の国際・BRICS」(⑨)は正答率が12.5%、「3.5 世界地理・東南アジアの輸出品目」(⑧)の正答者はゼロであった。「3.3」(⑥)と「8.1」(⑨)はそれぞれ「フィヨルド」

と「BRICS」を書く記述形式の設問であり、「3.5」(⑧)はグラフから読み取れる内容を説明する論述の設問であり、もともとJSL生徒にとっては解答が困難な設問形式である。実際、これらの設問は小テストでも正答者はゼロであった。ただ、同じく小テストで正答者がゼロであった「1.2 公民の政治・国会議員」(②)の正答率は50.0%となっている。「フィヨルド」や「BRICS」と比べると、「国会議員」は日常生活で見聞きする機会は多いため、生徒にとっても比較的覚えやすかったと考えられる。

未習事項の設問についてみると、22問中12問が正答者ゼロとなっている。これらの12問のうち、5問が選択形式、5問が用語を書く記述形式であり（うち1問が計算、1問が選択と合わせた複合問題）、2問が論述形式の設問である。このほかに、正答率が12.5%の5つの設問もすべて選択形式である。今回、世界地理と公民の国際に関する設問はすべて小テストの設問として利用している。これらの分野は、JSL生徒にとって比較的解答しやすいと考えられたためである。そのため、過去問の未習事項の設問は、日本地理・日本史・日本の政治や経済のしくみなどのJSL生徒にとってなじみの薄いテーマが中心となっている。このようなテーマは、選択形式の設問であっても、正答を得ることが困難となることがわかる。これらの解答しにくいテーマの中で、「2.3 日本地理・東海地方の工業」は75.0%の生徒が正答している。これは、「陶磁器の生産地である多治見市周辺では（ ）の生産も盛んである。」という説明に対して、選択肢の中から「ファインセラミックス」を選ぶ設問である（他の選択肢は「石油化学コンビナート」「自動車」「紙製品やパルプ」）。設問では、他に「豊田市」「富士市」「四日市市」に関する説明もあるため、東海地方の工業について総合的な考察が必要となる比較的高度な設問である（実際の試験の正答率は48.3%）。この

表 11 社会科の過去問（前期）

既習か未習か	設問番号	解答形式			設問の内容	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	正答率					
		分野	選択	記述		小テスト	ブラジル	アフガニスタン	アフガニスタン	タイ	フィリピン	フィリピン	中国	パキスタン	フィリピン	中国	中国	中国	エルサルバドル	調査対象生徒	実際の入試			
既習	1.3	日	選		③ 日本の食料自給率	○		△	△	△					○	△	△	△	△	100.0%	87.7%			
	3.1	世	選		④ 赤道と緯線	○		○	△	△					○	○	△	△	△	100.0%	62.3%			
	3.2	世	選		⑤ ダイヤモンドの生産	△		△	△	△					△	△	△	△	△	100.0%	49.6%			
	1.1	前	選		① 氷河期の終わり	△		△	▲	○					○	○	○	○	○	87.5%	68.6%			
	3.4	世	選		⑦ 中国の農業	△		▲	△	△					○	○	○	○	■	75.0%	69.9%			
	8.2	際	選		⑩ 南南問題	△		■	○	■					△	△	■	△	△	62.5%	66.9%			
	1.2	政	記		② 「国会議員」 内閣	■		■	■	△					△	■	△	△	△	50.0%	68.2%			
	3.3	世	記		⑥ 「フィヨルド」	■		△	■	■					■	■	■	■	■	12.5%	58.4%			
	8.1	際	記		⑨ 「BRICS」	■		■	■	■					△	■	■	■	■	12.5%	55.5%			
3.5	世		論	⑧ 東南アジアの輸出品目に関する資料の読み取り	■		■	■	■					■	■	■	■	■	0.0%	63.7%				
未習	2.3	日	選		東海地方の工業	◎		×	◎	×				◎	◎	◎	◎	◎	75.0%	48.3%				
	5.2	近	選		日露戦争、与謝野晶子と東郷平八郎	×		×	◎	◎					◎	×	×	×	×	37.5%	76.9%			
	1.4	経	選		ごみ排出量とリサイクル率についての資料の読み取り	×		◎	×	×					◎	×	×	×	×	25.0%	34.0%			
	2.41	日	選		地形図と高低	×		×	◎	×					×	×	◎	×	×	25.0%	66.5%			
	4.5	前	選		大化の改新と同時代の世界のできごと	×		×	×	×					◎	◎	×	×	×	25.0%	28.1%			
	2.2	日	選		第3次産業の就業割合	×		×	×	×					◎	×	×	×	×	12.5%	48.9%			
	2.42	日	選		地形図と方位・距離	×		×	◎	×					×	×	×	×	×	12.5%	82.6%			
	4.3	前	選		大坂夏の陣	×		×	×	×					×	×	×	◎	◎	12.5%	50.5%			
	6.1	経	選		市場のはたらき	×		×	×	×					◎	×	×	×	×	12.5%	52.0%			
	7.2	政	選		人権思想	×		×	×	×					◎	×	×	×	×	12.5%	54.5%			
	2.1	日	選	選記	「高松」 香川県の県庁所在地	×		×	×	×					×	×	×	×	×	0.0%	51.5%			
	4.1	前	記		「大宝律令」	×		×	×	×					×	×	×	×	×	0.0%	67.1%			
	4.2	前		論	日明貿易の内容	×		×	×	×					×	×	×	×	×	0.0%	45.2%			
	4.4	前	選		江戸幕府の政治改革	×		×	×	×					×	×	×	×	×	0.0%	41.1%			
	5.1	近	選		日米修好通商条約と甲午農民戦争の間のことから	×		×	×	×					×	×	×	×	×	0.0%	46.4%			
	5.3	近	記		「ファシズム」	×		×	×	×					×	×	×	×	×	0.0%	67.7%			
	5.4	近	選		日本人初のノーベル賞受賞者	×		×	×	×					×	×	×	×	×	0.0%	39.4%			
	5.5	近	選		マルタ会談と湾岸戦争	×		×	×	×					×	×	×	×	×	0.0%	26.9%			
	6.2	経	(計)		為替相場	×		×	×	×					×	×	×	×	×	0.0%	54.2%			
	6.3	経	選		年金給付等の在り方に関する資料の読み取り	×		×	×	×					×	×	×	×	×	0.0%	81.1%			
7.1	政	記		「国民主権」日本国憲法の基本原理	×		×	×	×					×	×	×	×	×	0.0%	81.3%				
7.3	政		論	裁判員制度のしくみ	×		×	×	×					×	×	×	×	×	0.0%	63.7%				
得点					合計点 (100 点中)	21	18	27	21						45	24	24	24	25.5					
					既習事項の得点 (31 点中)	18	15	15	18										24	18	18	18	18.0	56.6%
					未習事項の得点 (69 点中)	3	3	12	3										21	6	6	6	7.5	
正答率					既習事項の正答率	58.1%	48.4%	48.4%	58.1%						77.4%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	65.1%			
					未習事項の正答率	4.3%	4.3%	17.4%	4.3%										30.4%	8.7%	8.7%	8.7%	10.9%	54.9%

(注) 分野の区分：世…世界地理、日…日本地理、前…歴史（前近代）、近…歴史（近現代）、政…公民（政治）、経…公民（経済）、際…公民（国際）。

表 12 社会科の過去問（後期）

既習か未習か	設問番号	解答形式			設問の内容	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	調査対象生徒	実際の入試
		分野	選択	記述		小テスト	ブラジル	アフガニスタン	アフガニスタン	タイ	フィリピン	フィリピン	中国	パキスタン	フィリピン	中国	中国	中国		
既習	3.3	世	選		⑤ オーストラリアとアジア	○	×	△	△	■	△	○	■	△		○	△	△	75.0%	65.0%
	2.3	日	選		② 北陸の冬の降水量が多い理由	○	×	○	■	▲	■	○	△	■		○	○	△	58.3%	79.3%
	3.1	世	選		③ 正距方位図の読み取り	△	×	△	○	■	○	○	■	■		○	■	○	58.3%	86.6%
	5.4	際	選		⑦ 地球温暖化防止への取り組み	▲	◎	■	■	△	△	△	■	△		△	■	△	58.3%	88.3%
	1.3	世	記		① 「再生可能」エネルギー	■	×	■	■	△	△	△	■	■		△	△	△	50.0%	77.8%
	4.1	前	選		⑥ 古代文明	▲	×	■	■	△	○	△	■	△		△	■	■	41.7%	79.1%
	3.2	世	記		④ 「サンベルト」	■	×	■	△	△	△	△	■	■		■	■	■	33.3%	76.1%
	6.2	経	選		⑧ セーフティーネット	■	×	△	○	■	△	■	■	■		△	▲	■	33.3%	51.0%
	6.3y	経	選		⑨ 不景気ときの対策	■	×	■	▲	■	○	○	■	■		○	△	■	33.3%	82.6%
	7.2	政	論		⑩ 世論の定義	■	×	■	■	▲	○	△	▲	▲		▲	▲	△	25.0%	64.7%
未習	1.2	前	選		享保の飢饉以降のできごと	×	×	×	◎	◎	×	◎	◎	×		×	◎	×	41.7%	68.2%
	4.2	前	選		奈良時代のできごと	◎	×	×	×	◎	◎	×	×	◎		×	×	◎	41.7%	46.3%
	5.1	近	選		明治時代の文化	×	×	×	◎	◎	×	×	×	◎		×	◎	×	33.3%	82.2%
	6.3x	経	選		各国の実質経済成長率の推移、グラフの読み取り	×	×	×	×	◎	◎	◎	×	×		◎	×	×	33.3%	88.9%
	7.1	政	選		日本国憲法における社会権	×	◎	◎	◎	×	×	×	×	×		×	×	◎	33.3%	83.5%
	1.1	日	選		さつまいも栽培が盛んな4つの県における石油・石炭製品出荷額等、プロイラー、茶、野菜の産出額の表から県を特定	×	◎	×	×	×	×	×	×	◎		×	×	×	16.7%	64.6%
	3.4	世	選		地図と地球儀の対応	×	×	×	×	×	×	×	×	◎		◎	×	×	16.7%	53.9%
	5.3	近	選		日中戦争から国際連合加盟までのできごと	×	×	×	◎	×	×	×	×	◎		×	×	×	16.7%	25.8%
	2.4	日	選		新田の地形図の読み取り	×	×	×	×	×	×	×	×	◎		×	×	×	8.3%	73.9%
	4.5	前	選		日米修好通商条約と大政奉還	×	×	×	×	×	×	×	×	◎		×	×	×	8.3%	67.8%
	2.1	日	記		「長野（県）」接している府県の数が最も多い県	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×	×	0.0%	59.7%
	2.2	日	選記		「品種改良」北海道の稲作	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×	×	0.0%	38.5%
	4.3	前	記		「徳政令」	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×	×	0.0%	68.9%
4.4	前	論		アヘン戦争と南京条約	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×	×	0.0%	58.6%	
5.2	近	記		「民本主義」	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×	×	0.0%	56.3%	
6.1	経	記		「独占禁止法」	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×	×	0.0%	71.0%	
7.3	政	記		「住民投票」	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×	×	0.0%	39.2%	
得点	合計点（100点中）					15	11	19	30	28	38	37	7	38		34	21	31	25.8	
	既習事項の得点（36点中）					11		15	15	15	32	32	4	11		28	14	23	17.0	65.8%
	未習事項の得点（64点中）					4		4	15	13	6	5	3	27		6	7	8	8.8	
正答率	既習事項の正答率					30.6%		41.7%	41.7%	41.7%	88.9%	88.9%	11.1%	30.6%		77.8%	38.9%	63.9%	47.2%	75.1%
	未習事項の正答率					6.3%	11.0%	6.3%	23.4%	20.3%	9.4%	7.8%	4.7%	42.2%		9.4%	10.9%	12.5%	13.7%	61.6%

設問の正答率だけが低い理由としては、「陶磁器」にルビがふられているため、「セラミックス」(ceramics) という用語と結びつけて選択したことが考えられる。ただ、この選択肢だけは漢字が使われていないので、漢字を使わない地域出身の生徒は、無意識的に選んだ可能性も否定はできない。

(2) 第2回の過去問

第2回の社会科の過去問解答調査で用いた平成31年度社会科（後期）の設問は、大問7・小問27で構成されている。小テストの対象とした既習事項は10問（配点36点）、対象外とした未習事項は17問（配点64点）となっている。なお、実際に実施された試験の平均点は65.8点

(標準偏差 22.0) となっている。

表 12 は、第 2 回の社会科の過去問解答調査を受けた 12 名の解答状況を示したものである。調査対象生徒の平均得点は、合計点で 25.8 点、既習事項は 17.0 点 (正答率 47.2%)、未習事項は 8.8 点 (正答率 13.8%) となっている。第 1 回の合計点の平均の 25.5 点 (実施された試験の平均は 56.6 点) とはほとんど変わりが無い。

既習事項については、第 1 回と比べると正答率は低くなっている。その中で、「3.3 世界地理・オーストラリアとアジア」(小テスト⑤: 以下同じ) は 75.0% の正答率となっている。この設問は、資料として示された文章の「かつて、イギリスの植民地」で「1970 年代まで、ヨーロッパ系の白人以外の移民を制限する政策」をとっていたが、「アジア諸国との結びつきが強くなった」現代では「多文化主義に基づく社会づくり」を進めているという記載から、地図上のオーストラリアに該当する場所を選ぶ必要がある (他の選択肢は、インド、メキシコ、ブラジルに対応する場所)。この設問を小テストとして出題したときの正答率は 18.6% と低かったが、過去問の場合では高くなっている。これは世界地図という視覚的に記憶に残りやすい資料が用いられているため、解答がしやすかったためと考えられる。

未習事項の設問についてみると、17 問中 7 問が正答者ゼロとなっている。これらの 7 問のうち、6 問が用語を書く記述形式であり (うち 1 問は選択形式との複合問題)、1 問が論述形式の設問である。調査対象の生徒は、残りの選択形式の設問 10 問のうち、最低でも 1 問は正答できている。このような比較的難しい設問であっても、10% の得点は取ることが期待できる。この最低限のラインから、いかにして得点を加えていくかが、JSL 生徒の受験戦略にとっては重要となってくるだろう。

おわりに

JSL 受験戦略における理科と社会科の位置づけ

この論文では、日本語を第二言語とする生徒 (JSL 生徒) が高校入試の理科と社会科の対策をおこなう上で効果的な学習方法について考察するために、高校受験をひかえた JSL 生徒に対して、実際の入試問題を模擬的に解答する調査をおこなった。

JSL 生徒の指導方法としては、日本語指導と教科指導の統合を目的する「JSL カリキュラム」が公開されている。ただ、このカリキュラムは、「日本語の習得を通して学校での学習活動に参加するための力の育成」をめざしたものであるため、そのまま JSL 生徒の受験指導に使えるわけではない。そこで、入試での得点力を上げることに特化した「得点志向型」の学習方法として「JSL 受験戦略」を示し、JSL カリキュラムに適応させて相乗効果をあげることの重要性を指摘した。

母国の中学校を卒業した後に来日した JSL 生徒が高校を受験する場合、準備期間は長くても 1 年程度となるため、JSL カリキュラムが想定しているレベルにまで日本語の理解度を高めることは困難である。そのため、合格するためには、日本語能力の不足を前提条件として、この損失を最も少なくする「ミニマックス戦略」をとることになる。実際の入試で偏差値 40 程度の目標ラインを超えるためには、英語は 30 点、その他の数学・国語・理科・社会は 40 点前後を得点し、5 教科合計で 500 点満点中 200 点前後をとれば十分である。しかし、JSL 生徒の場合は日本語能力に問題があるため、すべての科目でこの目標ラインを超えることは困難である。そこで、各教科の特性を考慮に入れて、英語と数学で平均点 (55 点)、国語では最低ライン (10 点)、理科と社会では最低ラインプラス 10 点程

度（20点）を得点することを当面の目標とし、この合計160点と目標点の200点に近づけるべく、各人の状況に合わせた指導方法を模索することが重要となってくる。このとき、受験指導ではあまり重視されていない理科と社会科は重要性を持つてくる。

調査概況

両科目の得点力を向上させるためにも、実際の設問をどれだけ正答できるのか、その実態調査をおこなう必要が出てくる。このような問題意識のもとで、JSL生徒の学習指導をおこなうNPO団体のご協力のもと、入試の直前期対策として、2020年の2月に理科と社会科の過去問を解答する模擬試験を体験授業として参与調査をおこなった。

調査では、実際の試験で出題された設問群を、比較的平易なものやや難しいものの2種類にわけ、前者を加工した小テスト（10問）を日本語版と母語・英語版の2種類解答してもらったうえで解説をおこない、その後後者の過去問解答模擬試験（30問前後）を解答してもらおうこととした。なお、小テストに利用した設問は、過去問模擬試験では元の設問の形式で出題した。これらはすでに解説を受けた「既習事項」として位置づけ、その他のはじめて解く設問を「未習事項」として位置づけ、両者の得点状況の比較をおこなうこととした。

今回の調査では、中華人民共和国出身の4名、フィリピン出身の3名、アフガニスタン出身の2人、エルサルバドル・タイ・パキスタン・ブラジル出身の計4名、合計で13名に協力してもらった。対象生徒の年齢は16～17歳であり、入試がおこなわれる3月の時点で日本での平均滞在期間は1年前後となっている。

次に調査結果をまとめる。まず、小テストについてみると、両科目とも日本語で解答するものよりも母語・英語で解答する形式のほうが正

答率は高くなっている。理科の第1回の小テストの正答率は、日本語解答が35.0%、母語・英語解答が43.8%、第2回は日本語解答が32.0%、母語・英語解答が34.0%となっており、社会科の場合、第1回は、日本語解答が14.30%、母語・英語解答15.0%、第2回は日本語解答が16.0%、母語・英語解答が23.6%となっている。このように対象生徒の平均正答率は理科の方が社会科よりも高くなっている。このことから、JSL生徒にとっては社会科よりも理科のほうが得点を得やすく、受験対策の効果が高いことが指摘できる。

過去問解答の模擬試験の平均点は、理科は第1回が24.6点、第2回が32.5点、社会科は第1回が25.5点、第2回が25.8点であった。実際の試験ではこれくらいの得点を取ればまずは十分と考えられるが、これは一部既に解説を受けた設問が含まれているため、生徒の学力を正確に反映したものとはいえない。そこで、すでに解説を受けた内容が含まれる設問群を「既習事項」、それ以外を「未習事項」と分類し、それぞれの得点状況を比較した。

既習事項に関する設問の正答率は、理科は第1回が64.4%、第2回が72.7%、社会科は第1回が58.1%、第2回が47.2%となっており、実際に試験を受けた受験生全体の平均正答率に近くなっている。これに対して、小テストの対象としなかった未習事項の設問に関する正答率は、理科は第1回が10.6%、第2回が13.6%、社会科は第1回が10.9%、第2回が13.7%となっており、その正答率は極めて低くなっている。この未習事項の正答率を考慮に入れると、調査対象生徒が実際の試験で特別な対策をしない状態で理科と社会科を受けた場合、得点できる平均的なラインは15点前後となることが想定できた。

設問別の正答状況

実際の試験で、各人が重点を置いて学習すべ

きテーマについて考察するために、小テストや過去問全体を解答した調査の設問ごとの正答状況を分析する。

(小テスト)

理科の小テストの平均得点は、第1回の日本語形式が10点中3.50点、母語・英語形式が4.38点、第2回の日本語形式が3.20点、母語・英語形式が3.40点となっており、母語・英語形式のほうが得点できている。

全体として選択形式の設問の正答率が高く、特に①定義に対応する言葉を選択するものは、設問中で使われている漢字と正答の選択肢の漢字が対応している場合や、比較的読みやすい漢字やかなで構成されているものの正答率が高い。また、②資料として図が示されており、設問の意図と資料の情報を直観的に読み取ることができるものについては、母国で学習経験があれば、日本語が全く理解できなくても正答の可能性はある。これに対して、③文章を読み取って複数の知識を組み合わせて正答を求めるものや、④設問の図と選択肢の図を結びつける高度な設問の正答率は選択形式であっても低くなっている。

社会科の小テストの平均点は、第1回の日本語形式が1.43点、母語・英語形式が1.50点、第2回の日本語形式が1.60点、母語・英語形式が2.36点となっており、理科の正答率よりも低くなっている。社会科については理科のように正答率の高い設問の傾向を指摘することが難しい。この反対に、全く正答できない設問の形式として、用語を書く記述形式と文章で説明する論述形式があげられる。理科の場合は記述形式であっても化学記号や計算問題の場合は正答も不可能ではない。しかし、社会科の場合、教科書に示されている多くの用語を日本語で理解していなければ得点は不可能である。学習内容によっては政治や経済のしくみが日本と同様にデモクラシーや資本主義体制をとっている地域の

場合、母語や英語で設問の解答例よりも高い水準の正答を示すことができる生徒もいる。しかし、この場合も日本語のアウトプット力の不足から得点には結びつかない。

なお、選択形式の設問であっても、資料と資料を結びつける設問や選択肢の文章を読み取る必要がある設問は正答率が低くなる傾向にある。

(過去問)

理科の過去問の平均得点は、第1回が合計点で24.6点、既習事項は16.8点（正答率64.4%）、未習事項は7.9点（正答率10.6%）となっており、第2回は合計点で32.5点、既習事項は23.3点（正答率72.7%）、未習事項は9.3点（正答率13.6%）となっており、既習事項の正答率が高くなっている。理科の設問は資料として図が示されているものが多いため、既習事項の設問で同じ図が出題された場合、設問の意図や情報を読み取ることが容易である。それでも、漢字で答える記述形式の設問や、設問の文章と選択肢の語群をすべて理解する必要がある選択形式の設問の正答率は低くなっている。一方で、未習事項の設問についてみると、第1回は26問中15問、第2回は21問中10問が正答者ゼロとなっている。これらの大半が記述形式と論述形式の設問である。

社会科の過去問の平均得点は、第1回が合計点で25.5点、既習事項は18.0点（正答率58.1%）、未習事項は7.5点（正答率10.9%）となっており、第2回は合計点で25.8点、既習事項は17.0点（正答率47.2%）、未習事項は8.8点（正答率13.8%）となっており、既習事項の正答率が高くなっている。また、理科と比べると全体的に低くなっている。既習事項の各設問のうち、世界地図などの視覚的に記憶に残りやすい資料が用いられているものは比較的正答率が高くなっている。これに対して、記述形式の設問や論述形式の設問はほとんど正答できていない。未習事項の設問についてみると、第1回は

22問中12問、第2回は17問中7問が正答者ゼロとなっている。理科と同様、これらの大半が記述形式と論述形式の設問である。また、選択形式の設問であっても、日本地理・日本史・日本の政治や経済のしくみなどのJSL生徒にとってなじみの薄いテーマの場合、正答率は低くなっている。

JSL 受験戦略の課題

記述形式と論述形式の設問で正答が期待できない以上、選択形式の設問の対策に重点を置かざるをえない。日本語の理解度と日本の学校でまなぶ学習内容が十分でないJSL生徒にとって、これはあくまでも正答を選ぶ確率を高めるための暫定的な方法に他ならない。設問別の正答状況を見ると、実際の試験では正答率の低い難しい設問であっても、調査対象の生徒の多くが正答している場合がある。本論文ではその理由について、①読み取りやすいひらがなやカタカナの選択肢を解答し、たまたまそれが正答だった場合、②設問意図は読み違えたが、正答を導くプロセスがたまたま合っていた場合、③解答形式を間違えたが、選んだ答えも間違えていたため正答としてはたまたま合っていた場合の3点を指摘した。確率に頼る戦略を取る以上、そのプロセスは「得点志向型」の立場からは正当化される。しかし、「とにかく正答すればよい」というJSL受験戦略には、知識のストックと論理の使いこなしに基づいた本来の正答プロセスを無視してしまうという学習上の問題点も含んでいる。JSL生徒に対しては、持っている知識を使って極力設問を読み取って正答を選択するという学習上の姿勢を強調したうえで、JSLカリキュラムに基づく学習方法を提示していく必要があるであろう。

日本語学習と結びつけた理科と社会科の学習方法

今回の調査で、理科と社会科の両方でJSL生徒が正答を得やすいものとしては、イラストや地図などの視覚的にパターン認識がしやすい資料と、キーワードを結びつける選択形式の設問であることがわかった。理科の場合は定義に対応するキーワードを選択する設問も比較的正答率が高い。よって、キーワードについて日本語と母語・英語を対照させる学習方法が有効であると考えられる。これに対して、社会科の場合は教科書に記される用語数も膨大であるのに加えて、世界地理と公民の一部を除けばそのほとんどは学習経験のないものである。理科の場合は質を高める学習方法が有効であるのに対して、社会科の場合は量を重視した学習が重要となってくる。しかしこのような量を重視した学習方法は、もともと準備に余裕のないJSL生徒にとっては労力のわりに効果が低くなる。よって、社会科の学習を目標とするよりもむしろ、日本語の日常的な用語について、地理や歴史の知識と結びつけて学習する方法が1つの解決策として考えられるであろう。

たとえば「コメ」(rice)という言葉については、「米」「田」「農業」「稲」などの基本的な漢字の学習と結びつけるほかに、米の産地について世界地理と日本地理で説明し、できれば日本史の知識(公地公民から荘園へ、太閤検地、地租改正、農地改革)と結びつけることも考えられる。また、「でんぶん」の例としてあげるほかに、もみ米・玄米・精米の違いを示すことで、理科の学習にも結びつけることもできよう。このような日本語と理科・社会科を結びつけた有機的な学習方法について、今後はテキストとオンライン学習における動画の活用方法についても考察を加えていきたい。

謝 辞

本論文を作成するにあたり、調査に快く協力して下さいました先生方と生徒の皆様様に深く感謝いたします。

《注》

- (注 1) この節では、報告書の記載に従って「日本語指導が必要な児童生徒」という表現をしている。ここで対象とされているのは、小中高校に通学する児童生徒である。実際に日本語指導が必要な児童生徒は未就学者や既卒者も含めることになるので、以下では全体を「日本語を第二言語とする児童生徒 (JSL 児童生徒)」として議論を進めていく。
- (注 2) 法務省「令和元年末現在における在留外国人人数について」。ただし、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の拡大に伴う入国制限の影響で、令和 2 年 6 月末時点では 288 万 5,904 人となり、2019 年末より 1.6% 減少している。
- (注 3) 全国の公立小学校、中学校、高等学校、義務教育学校、中等教育学校及び特別支援学校に在籍する児童生徒。
- (注 4) 文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査 (平成 30 年度)」(令和元年 9 月 27 日公表、令和 2 年 1 月 10 日一部訂正)。
- (注 5) 文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課『外国人児童生徒受入れの手引き (改訂版)』2011 年 3 月発行 (2019 年 3 月改訂)、11 頁。なお、この「特別の教育課程」は小学校及び中学校において編成・実施が可能であり、高等学校、中等教育学校の後期課程、特別支援学校の高等部は含まれていない。
- (注 6) カミンズ (2011) は生活場面で必要とされる言語能力を BICS (Basic Interpersonal Communicative Skills: 伝達言語能力)、教科の学習場面で必要とされる言語能力を CALP (Cognitive Academic Language Proficiency: 学習言語能力) としている。
- (注 7) 文部科学省『学校教育における JSL カリキュラム (中学校編)』(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/011.htm)。
- (注 8) 文部科学省初等中等教育局国際教育課 (2007)『学校教育における JSL カリキュラム (中学校編)』(I JSL カリキュラムの基本的考え方)。
- (注 9) 神林 (2019) では社会科の JSL 受験戦略で

は世界地理と公民 (国際) を重点的に学習することを指摘した。

- (注 10) 技術的には、極端に難しい設問あるいは極端に簡単な設問だけでも合否を決定することは可能である。
- (注 11) 私立高等学校の受験対策の場合、生徒は受験産業が実施する模擬試験を受けることで自分の学力を知ることができる。ただそれだけでは不十分であり、志望校の出題傾向にあわせた対策をオプションとしておこなう必要がある。これらの指導は学校の他に学習塾が担っているが、JSL 生徒の場合、このような受験産業へのアクセス機会が限られている。JSL を対象とした学習塾は、現時点では収益を上げることは難しいためほとんど存在しない。
- (注 12) 5 教科合計の平均点が 290、標準偏差が 90 とすると、得点 160 は次の式から、偏差値 36 として示すことができる。
- $$\text{偏差値} = 10 \times \frac{(\text{個々の得点} - \text{平均点})}{\text{標準偏差}} + 50$$
- $$\text{偏差値} = 10 \times \frac{(160 - 290)}{90} + 50 = 35.55 \dots$$

【参考文献】

- (和文献)
- 加藤あさぎ (2004)「日本語指導が必要な児童生徒に対する社会科学習支援—ある外国人児童の名詞に生じた困難—」『麗沢大学論叢』第 15 巻、1-14 頁。
- カミンズ、ジム著 / 中島和子訳 (2011)『言語マイノリティを支える教育』慶應義塾大学出版会。
- 神林邦明 (2018)「社会科の入試問題の解答プロセス—日本語を第二言語とする生徒の学力把握のために—」『国際開発学研究』第 17 巻第 2 号、1-25 頁。
- 神林邦明 (2019)「日本語を第二言語とする生徒の社会科入試対策：得点志向型教材の作成に向けて」『国際開発学研究』第 18 巻第 2 号、41-75 頁。
- 国際日本語普及協会 (2010)『かんじだいすき：〈中学に向けて〉日本語をまなぶ世界の子どものために 社会・理科編』国際日本語普及協会。
- 国際日本語普及協会 (2014)『練習帳かんじだいすき：〈中学に向けて〉日本語をまなぶ世界の子どものために 社会・理科編』国際日本語普及協会。
- 宮部真由美 (2008)「小学校社会科教科書の他動詞の使用について—連語論の観点から—子どもに対する教科学習の日本語支援のために—」文教大学文学部『文学部紀要』第 22 巻第 1 号、69-90 頁。

(洋文献)

Brinton, D. M., Snow, M. A., and Wesche, M. B.
(1989), *Content-based second language Instruction*, Newbury House Publishers.

【試験問題に関する統計の出所】

千葉県教育委員会の発表による。

【調査票】 英語以外の言語は、英文をもとに Google 翻訳を利用して作成した。

(日本語版)

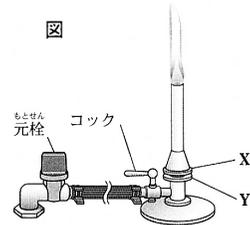
平成 31 年度 前期 理科

(1) 【物理】 放電管で真空放電が起きています。マイナス極からプラス極には何が向っていますか。

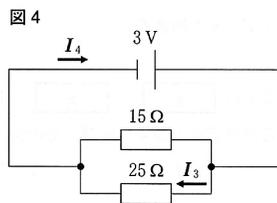
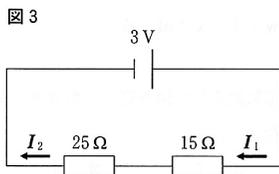
- ア 電子 イ 陽子 ウ 中性子 エ 原子

(2) 【化学】 ガスバーナーに炎がついています。炎の色はオレンジです。
炎の色を青にするためには、ガスバーナーをどう動かせばよいですか。

- ア Y を固定します。X を閉じます。
イ Y を固定します。X を開きます。
ウ X を固定します。Y を閉じます。
エ X を固定します。Y を開きます。



(3) 【物理】 電流の大きさを比べてください。正しいものを選んでください。



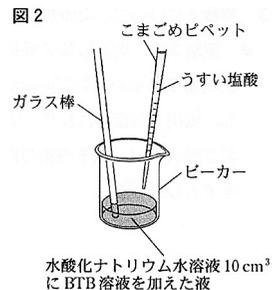
- ア $I_1 < I_2, I_3 < I_4$
イ $I_1 < I_2, I_3 = I_4$
ウ $I_1 = I_2, I_3 < I_4$
エ $I_1 = I_2, I_3 = I_4$

(4) 【化学】 ビーカー A, B, C, D, E に BTB 溶液を入れました。これらはそれぞれの色です。

A	B	C	D	E
青	青	緑	黄	黄

液体の性質はどれですか。

	ビーカー B	ビーカー C	ビーカー D	ビーカー E
ア	酸性	酸性	中性	アルカリ性
イ	酸性	中性	アルカリ性	アルカリ性
ウ	アルカリ性	アルカリ性	中性	酸性
エ	アルカリ性	中性	酸性	酸性



(5) 【生物】 葉にヨウ素液をつけたら青紫色になりました。葉にある物質は何ですか。

- ア タンパク質 イ デンプン ウ 二酸化炭素 エ 酸素

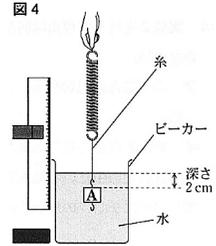
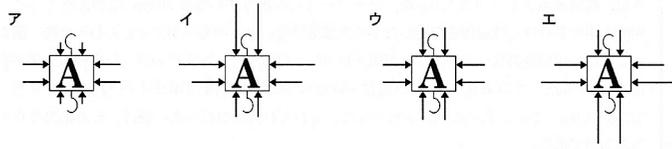
(6) 【生物】 a b c d の中の正しい言葉の組み合わせを選んでください。

光があたる場所では、酸素が増えて、二酸化炭素が減りました。
なぜならば、植物の (a) の量よりも、(b) の量のほうが多いからです。
光があたらない場所では、二酸化炭素が増えて、酸素が減りました。
なぜならば、植物が (c) をしないときでも、植物は (d) をするからです。

	a	b	c	d
ア	光合成	呼吸	光合成	呼吸
イ	光合成	呼吸	呼吸	光合成
ウ	呼吸	光合成	光合成	呼吸
エ	呼吸	光合成	呼吸	光合成



- (7) 【物理】水の中におもりが沈んでいます。
おもりに対する水圧の強さはどうですか。
(矢印の長さは水圧の大きさをあらわします。)



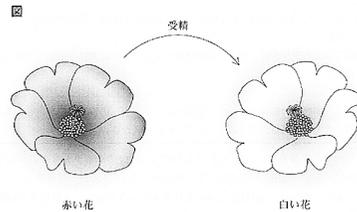
- (8) 【化学】化学変化の前と後では、物質全体の質量は変化しません。
これを「質量保存」の法則といいます。
なぜ質量は変わらないのですか。

- ア 原子の組み合わせが変わりますが、原子の種類と原子の数は変わらないからです。
- イ 原子の数は変わりますが、原子の組み合わせと原子の種類は変わらないからです。
- ウ 原子の組み合わせと原子の種類は変わりますが、原子の数は変わらないからです。
- エ 原子の数と原子の種類は変わりますが、原子の組み合わせは変わらないからです。

- (9) 【生物】赤い花の遺伝子は A です。白い花の遺伝子は a です。

赤い花の親の細胞の遺伝子は AA です。
白い花の親の細胞の遺伝子は aa です。

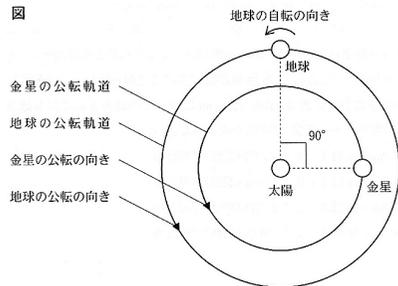
赤い花と白い花をかけあわせませす。
子供の花の細胞の遺伝子は Aa です。



子供の花どうしをかけあわせると、孫の細胞の遺伝子は AA, Aa, aa になります。この比率を選んでください。

- ア AA : Aa : aa は 1 : 1 : 1 の比(割合)で現れる。
- イ AA : Aa : aa は 2 : 1 : 1 の比(割合)で現れる。
- ウ AA : Aa : aa は 1 : 2 : 1 の比(割合)で現れる。
- エ AA : Aa : aa は 1 : 1 : 2 の比(割合)で現れる。

- (10) 【地学】地球から金星はどのように見えますか。



【正答】

- (1) ア (2) イ (3) ウ (4) エ (5) イ
(6) ウ (7) エ (8) ア (9) ウ (10) イ

平成 31 年度 後期 理科

(1) 【地学】 岩石は温度の変化によって細かくなっていきます。これを何といいますか。

(原文のママ。母語・英語版にはなし)

岩石の破片に塩酸をつけました。すると気体が発生しました。

この岩石の種類は何ですか。ア～エから選びなさい。

- ア 玄武岩 イ 石灰岩 ウ 凝灰岩 エ チャート

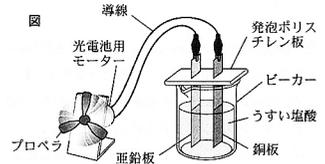
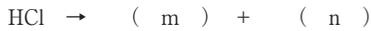
(2) 【生物】

顕微鏡を使います。はじめは低い倍率で見ます。次に、高い倍率で見ます。

見える範囲と明るさはどうなりますか。ア～エから選びなさい。

- ア 見える範囲はせまくなる。視野は暗くなる。
 イ 見える範囲はせまくなる。視野は明るくなる。
 ウ 見える範囲は広くなる。視野は暗くなる。
 エ 見える範囲は広くなる。視野は明るくなる。

(3) 【化学】 塩化水素は電離するとどうなりますか。m と n に書きなさい。



(4) 【化学】

塩化水素や塩化ナトリウムを水に溶かします。

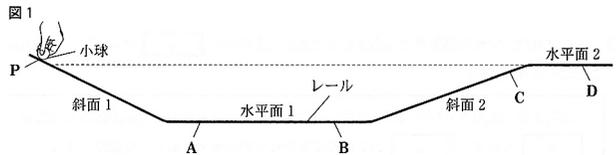
すると電流が流れます。

このような物質を何といいますか。書きなさい。

(5) 【物理】 図を見てください。

ボールを手から離します。

摩擦と空気抵抗はありません。



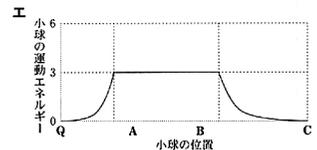
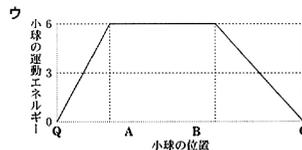
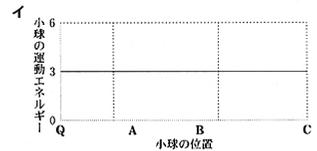
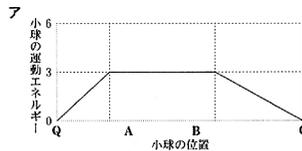
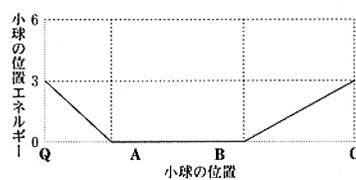
図はボールの位置エネルギーを表しています。

この位置エネルギーは3です。

ボールの運動エネルギーを表す図はどれですか。

ア～エから選びなさい。

図 4



(6) 【地学】

図は夏至の日の太陽の位置を表します。

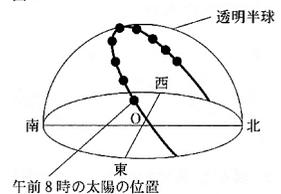
太陽は朝に東からのぼり、夕方に西に沈みます。

この太陽の動きを何といいますか。

ア～エから選びなさい。

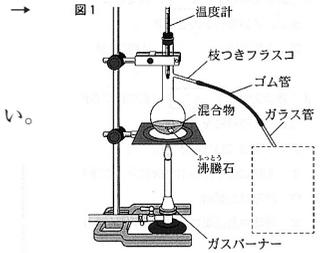
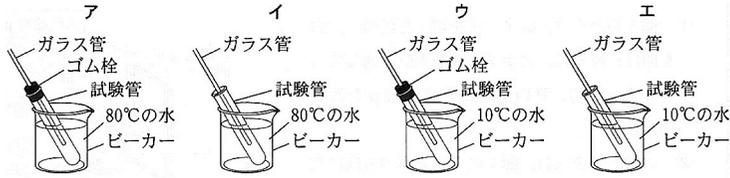
- ア 日食 イ 黄道 ウ 年周運動 エ 日周運動

図 1



(7) 【化学】 フラスコの中にエタノールと水があります。

このフラスコを温めます。
ガラスの管から液体を集めるためにはどうしますか。ア～エから選びなさい。



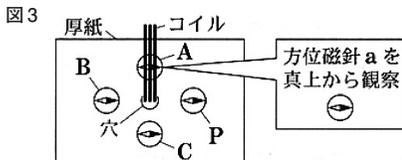
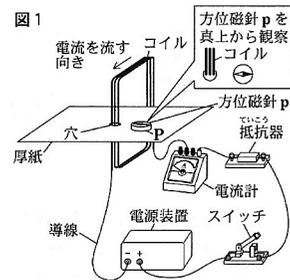
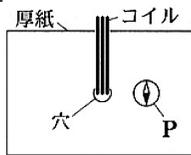
(8) 【化学】 液体を沸騰させると気体になります。この気体は液体になります。このことを何といいますか。

ア～エから選びなさい。
ア 燃焼 イ 蒸留 ウ 還元 エ ろ過

(9) 【物理】 コイルに電流を流します。 → 図2

Pの方位磁針はこうになります。

A・B・Cの方位磁針はどうなりますか。
ア～エから選びなさい。



	A	B	C
ア			
イ			
ウ			
エ			

(10) 【生物】 目に光の刺激が入ります。

この刺激を、感覚神経を通る信号に変えるのは何の細胞ですか。ア～エから選びなさい。

ア 角膜 イ 虹彩 ウ レンズ エ 網膜

【正答】

- (1) イ (2) ア (3) $H^+ + Cl^-$ (4) 電解質 (でんかいしつ)
(5) ア (6) エ (7) エ (8) イ (9) ウ (10) エ

平成 31 年度 前期 社会科

- (1) I II に入る正しい言葉の組み合わせをア～エから選びなさい。
 1 万年前に氷河期が終わりました。だから、海面が I しました。
 気候は II になりました。だから、食料となる動物や木の実が増えました。

- ア I : 上昇 II : 温暖 イ I : 下降 II : 温暖
 ウ I : 上昇 II : 寒冷 エ I : 下降 II : 寒冷

- (2) の中の言葉を漢字 4 字で書きなさい (同じ言葉です)。
 日本の内閣総理大臣は、 の中から国会の議決で指名されます。
 内閣総理大臣は、国務大臣を任命します。国務大臣の過半数は、 でなければならない。

- (3) に入る正しい言葉をア～エから選びなさい。

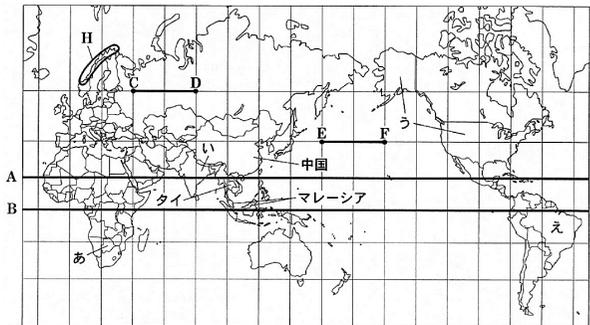
今、貿易の自由化が進んでいます。
 だから、。
 よって、日本の食料自給率は低いです。

- ア. 海外から輸入される価格の高い農産物が増えました
 イ. 海外から輸入される価格の安い農産物が増えました
 ウ. 海外から輸入される価格の高い農産物が減りました
 エ. 海外から輸入される価格の安い農産物が減りました

- (4) I II に入る正しい言葉の組み合わせをア～エから選びなさい。

赤道は I です。
 CD と EF は地図では同じ長さです。実際は II の方が長くなります。

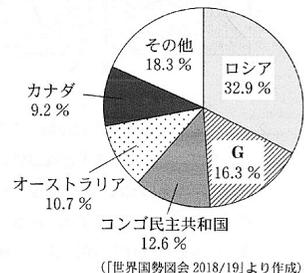
- ア I : A II : CD
 イ I : A II : EF
 ウ I : B II : CD
 エ I : B II : EF



(注) 島等は省略したものもある。また、国境に一部未確定部分がある。

- (5) このグラフはダイヤモンドの生産の割合を示しています。
 G の国を地図のあ～えから選びなさい。

資料 1 ダイヤモンドの生産の割合 (2015 年)



- (6) の中の言葉をカタカナで書きなさい。
 ヨーロッパの北部の沿岸には、氷河によってできた という湾があります。

- (7) に入る正しい言葉の組み合わせをア～エから選びなさい。

(中国の農業)

中国の北部（東北と華北）は雨が少いです。ここでは が行われています。

中国の南部（華中と華南）は雨が多いです。ここでは が行われています。

中国の西部（内陸部）は乾燥しています。ここでは が行われています。

- ア Ⅲ：畑作 Ⅳ：牧畜 Ⅴ：稲作
 イ Ⅲ：稲作 Ⅳ：畑作 Ⅴ：牧畜
 ウ Ⅲ：畑作 Ⅳ：稲作 Ⅴ：牧畜
 エ Ⅲ：稲作 Ⅳ：牧畜 Ⅴ：畑作

- (8) この表はタイとマレーシアの主な輸出品を示しています。

この表を読んで、 の中に文章を書きなさい。

(10字以上20字以内)

タイ

1980	米	14.7%	野菜と果実	14.2%	天然ゴム	9.3%
2016	機械	31.3%	自動車	12.8%	プラスチック	4.2%

マレーシア

1980	原油	23.8%	天然ゴム	16.4%	木材	14.1%
2016	機械	41.4%	石油製品	6.6%	パーム油	4.8%

東南アジアの国々は賃金が安いので、外国企業がたくさん来ました。

タイやマレーシアでは工業化が進みました。そのため、1980年と2016年を比べると、主な輸出品は、

になりました。

- (9) の中の言葉をアルファベットの大文字5字で書きなさい。

ブラジル、ロシア連邦、インド、中国、南アフリカ共和国の5か国の経済は成長しています。

これらの国々を といいます。

- (10) の正しい言葉の組み合わせをア～エから選びなさい。

特定の資源と作物の生産と輸出に依存する経済を 経済といいます。

発展途上国の中の経済的な格差を といいます。

- ア Ⅰ：モノカルチャー Ⅱ：南北問題 イ Ⅰ：グローバル Ⅱ：南北問題
 ウ Ⅰ：モノカルチャー Ⅱ：南南問題 エ Ⅰ：グローバル Ⅱ：南南問題

【正答】

- (1) ア (2) 国会議員 (3) イ (4) エ (5) あ (6) フィヨルド
 (7) ウ (8) 資源や農産物から機械類などの工業製品
 (9) BRICS (10) ウ

平成 31 年度 後期 社会科

(1) 中の言葉を漢字 4 字で書きなさい。

太陽光, 風力, 地熱, バイオマスを エネルギーといいます。(漢字 4 字)

(2) 地図の記号*は 1 月に雪が多い場所を示します。

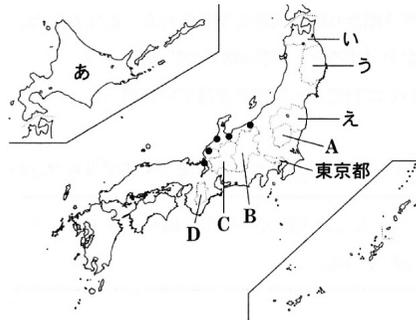
海の上の空気が雲になります。

雲が山にぶつかり, 雨が降ります。

寒いので雪が降ります。

何がこの雲を作りますか。ア～エから選びなさい。

- ア 南東の季節風 イ 南西の季節風
ウ 北東の季節風 エ 北西の季節風



この地図では東京からの距離と方位が正しく表されています。

(3) 正しいものをア～エから選びなさい。

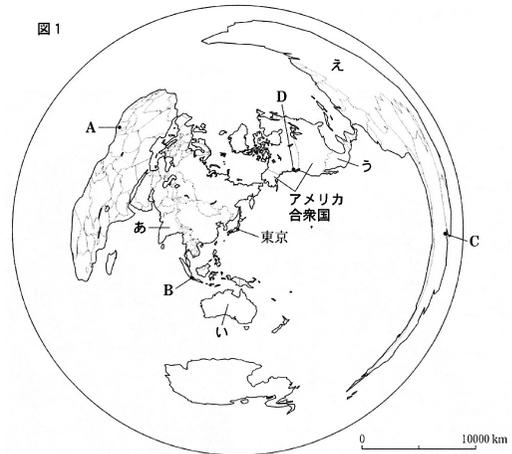
ア A は東京の北西の方向にあります。A は ABCD の中で最も東京から遠い。

イ B は東京の南東の方向にあります。B は ABCD の中で最も東京に近い。

ウ C は東京の西の方向にあります。C は ABCD の中で 3 番目に東京に近い。

エ D は東京の北東の方向にあります。D は ABCD の中で 2 番目に東京に近い。

図 1



(注) 島等は省略したものもある。また、国境に一部未確定部分がある。

(4) アメリカ合衆国の工業について。

北緯 37 度よりも南の地域では, 航空機産業や IT 産業が発達しています。

この地域を何といいますか。

カタカナ 5 字で書きなさい。

(5) この国はイギリスの植民地でした。

1970 年代まで, ヨーロッパ以外からの移民は制限されていました。

今はこの制限は変わりました。

なぜならば今はこの国はアジアの国々との強い関係があるからです。

これはどの国ですか。あ～えから選びなさい。

(6) 孔子と関係のある文明を選んでください。

ア モヘンジョ・ダロなどの都市でインダス文字が使われました。

イ 殷という国で甲骨文字が使われました。

ウ ナイル川のまわりに国々ができました。太陽暦や象形文字が発明されました。

エ くさび形文字が使われました。太陰暦や 60 進法が発明されました。

- (7) に入る正しい言葉の組み合わせをア～エから選びなさい。

地球温暖化の原因は などの温室効果ガスにあると考えられています。
これらの温室効果ガスを減らすために、1997年に 議定書が採択されました。
これは2005年に発効しました。

- ア I：オゾン層 II：水俣 イ I：オゾン層 II：京都
ウ I：二酸化炭素 II：水俣 エ I：二酸化炭素 II：京都

- (8) セーフティーネットとは何ですか。ア～エから選びなさい。

- ア 将来の世代と現代の世代の幸福を両立させる発展を目指す考え。
イ 失業による経済的な問題に備えるしくみ。
ウ プライバシーを守るしくみ。
エ 道路やダムを作る前に環境への影響を調べること。

- (9) 不景気のとき、政府はどのような政策をおこないますか。

- ア 貸し出しの金利を上げて、生産活動を縮小する。
イ 政府が増税をして、消費活動を縮小させる。
ウ 日本銀行が国債を買い、銀行の資金の量を増加させる。
エ 政府が公共事業を減らし、民間企業の仕事を減少させる。

- (10) の中に文章を書きなさい。(20字以内)

世論とは、政治や のことです。

【正答】

- (1) 再生可能 (2) エ (3) エ (4) サンベルト (5) い
(6) イ (7) エ (8) イ (9) ウ
(10) 社会について、多くの人々がもっている意見

(かんばやし・くにあき 拓殖大学非常勤講師)